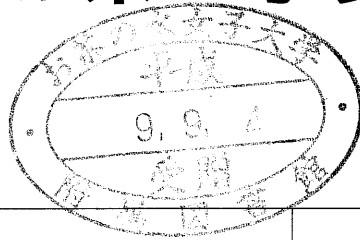




お茶の水女子大学学报



平成9年5月1日
お茶の水女子大学庶務課

目次

◇卒業式・学位記授与式学長告辞…………… 2	◎平成10年度お茶の水女子大学理学部第3年 次編入学（社会人特別選抜を含む）学生募 集要項…………… 57
◇入学式学長告辞…………… 4	◎学位授与…………… 63
◇各種委員会委員…………… 6	◎卒業式及び学位記授与式…………… 65
◇学科主任…………… 20	◎入学式…………… 66
◇新任部局長紹介…………… 21	◇諸報…………… 72
◇人 事…………… 23	◎永年勤続者表彰式…………… 72
◇学 事…………… 36	◎平成9年春の叙勲…………… 72
◎平成9年度お茶の水女子大学大学院人間文 化研究科（博士前期課程）発達社会科学専 攻社会人学生募集要項…………… 36	◎海外渡航…………… 73
◎平成9年度お茶の水女子大学大学院人間文 化研究科（博士課程）人間環境学専攻第2 次学生募集要項…………… 41	◎健康診断…………… 73
◎平成9年度お茶の水女子大学大学院人間文 化研究科（博士課程）人間環境学専攻外国 人留学生第2次学生募集要項…………… 46	◎大学資料委員会からのお知らせ…………… 74
◎平成9年度お茶の水女子大学大学院人間文 化研究科（博士後期課程）複合領域科学専 攻学生募集要項…………… 49	◇日誌…………… 75
◎平成9年度お茶の水女子大学大学院人間文 化研究科（博士後期課程）複合領域科学専 攻外国人留学生学生募集要項…………… 54	

卒業式・学位記 授与式学長告辞



まず最初に、本日もめでたく学部そして大学院を、卒業あるいは修了する皆さんに、心から「おめでとう」と申し上げます。

今日の皆さんの喜びを、ここに御列席の父兄の方々、本学名誉教授・御来賓の方々、さらにはこれまで指導に当たって来られた本学の教職員の方々とともに分かち合えるのを、たいへんうれしく思います。それぞれ所定の課程を終えてこの佳き日を迎えられた皆さんの喜びは、とりもなおさず我々全員の喜びであり、誇りでもあります。

さて、いま卒業証書と学位記を手にして、皆さんは何を思っておいででしょうか。それぞれの思いは決して一様ではないと思います。定めし学生生活の楽しかったこと、苦しかったことなど、さまざまな思いが胸中にわき起こっているのではないのでしょうか。過ぎ去った日々を顧みて、入学時に抱いていた計画や夢を思いどおりに実現しえたと満足している人や、まだやり残したことがあると満たされない思いでいる人、あるいは夢と現実のギャップに悩んだまま学生生活を終える人など、現在の思いは各人各様でしょう。しかし、満足していようとしていまして、本学での生活があなたがたの将来に是非ともプラスの形で生かされることを切に希望して

止みません。本当の意味で本学における学生生活の評価が下されるのは、ひとえにこれから以後の皆さんの生き方にかかっています。4月から、会社や学校などに就職して実社会で働く人も、大学院に残って研究を継続する人も、いずれもこれからの新しい生活の中で、今日までの本学に置ける学生生活の意味が検証されなければなりません。

今日の卒業式は、皆さんの今後の長い人生のなかの一つの区切りにすぎません。あなたがたの人生は今日から始まると言ってもよいでしょう。大部分の人にとっては、長い学校生活がようやく終わり、解放感とともに将来の生活に対する期待と不安を抱きながらの卒業式だと思いますが、皆さんが予測しているように、社会の人々の目は決して甘くありません。国立の女子高等教育機関として長い伝統をもつ本学の出身者には社会の大きな期待と同時に、厳しい要求があることを十分覚悟して、新しい生活に踏み出して欲しいと思います。皆さんがお茶の水女子大学で学んだという事実は、これは終生変わることなく背負って行かなければならない看板ですが、しかし、決して本学の評判や名誉のために努力して欲しいと言うつもりはありません。皆さんの一人一人がこれから社会の各分野で有用な人材に成長するために、少なくとも社会の一員として存在意義のある人として生きて行くために、今日まで本学で学んだことをプラス・マイナスの両面において、あなたがた自身の将来の生活のパネにして欲しいと希望しているのです。

明治8年(1875)、本学の前身である東京女子師範学校開学の式典で、棚橋絢子が女性教員総代として祝辞を述べました。そのとき彼女の詠じた漢詩に「天地は無用の人を生ぜず、人は生まれて不文の身と作る莫れ」という詩句があります。「不文の身」というのは無学で粗野な人と同義ですが、詩句の意味は「この世に無用の人など存在するはずはないから、人はすべて

学問を身につけて有用の人になるべきだ」といっているものです。それまで学問から疎外されていた当時の女性に対する一種の「学問のすすめ」であり、女子師範の設立の目的をみごとに言い表した言葉でしたが、長い時間を経て社会状況がすっかり変わった今日でも、男女を問わずこの句は我々の生活信条として立派に通用します。皆さんのすべてが「天地は無用の人を生ぜず」を固く信じ、何時までも向学心をもち続けて将来の生活を切り開いていってくださるよう本心から希望します。それが結果として、社会におけるお茶の水女子大学の評価を作っていくことになり、あなたがたの先輩がこれまで営々と築き上げてきた本学の輝かしい伝統の実体です。

伝統といえば、先程述べた明治8年以来の東京女子師範学校、東京女子高等師範学校の長い歴史はひとまず措くとしても、戦後の昭和24年（1949）5月31日に新制総合大学のお茶の水女子大学として発足してからすでに48年になんなんとする歳月が経過しました。この間、昭和38年（1963）の大学院家政学研究科修士課程の設置を皮切りに全学の修士課程が順次整備され、昭和51年（1976）には人間文化研究科博士課程が設置されて今日に至っています。総合大学としての新しい伝統ができつつあると言えますが、伝統がたえまない自己変革の努力の上にこそ成り立つものであることを、本学の歴史は如実に示していると思います。あなたがた全員がこの伝統造りの一員であるわけです。

本日の卒業式・学位記授与式は、学部が45回目、修士課程が33回目、博士課程が14回目になります。卒業証書と学位記を授与された人は、学部537名、修士課程198名、博士課程14名の総計749名にのぼります。この中には外国からの留学生が26名含まれていますが、他の国々に比べて生活条件が必ずしも良好といえない日本で所期の目的を完遂された留学生の皆さんに、あらためてお祝いの言葉を述べたいと思います。

今日卒業する皆さんが今後進む道は、いかなる道であろうと、決して平坦ではありえません。男女共同参画型社会の実現や、男女雇用機会の均等が叫ばれてから相当の時間がたっていますが、いまだに理想に程遠い状況にあることは女性である皆さんがたが一番身に染みて感じていることでしょう。はっきり言って、我が国の社会はまだ男女不平等であることは紛れもない事実です。あと数年後に迫った21世紀に向けて、この社会の不条理・不平等を改善する最も大きな力となるのは、ほかでもなく女性であるあなたがた自身であり、社会の改善はあなたがた一人一人の責任と義務です。

最後に、皆さんが健康に十分注意して、充実した生活を送られるよう衷心より希望して、告辞と致します。

平成9年3月24日

学長 佐藤 保

入学式学長告辞



新入生の皆さん、並びに父兄の方々、まずは本学の教職員を代表して皆さんを心から歓迎し、お祝いの言葉を申し上げます。東京にしばらく降り続いた雨も昨日上がり、本日の晴れの式典を祝うかのように、明るい素晴らしい日和になりました。新入生の皆さんの前途もかくあれかしと希望致します。

ただ今入学を許可しました新入生は総計877名、その内訳は学部学生584名と、この4月1日から新しい体制で発足することになった大学院人間文化研究科博士前期課程の224名、博士後期課程の69名の学生諸君であります。この中には学部で3名、大学院で31名の計34名の外国人留學生が含まれています。数の上から言えば、ほぼ例年通りであります。今年も大学院の改組のみならず、学部においても3学部全ての学部で前・後期に分けた分離・分割試験を実施した最初の年に当たり、皆さんは本学の歴史の節目の一つに入学された学生ということになります。それだけに我々教職員は、皆さんのこれからの学業の成果に大きな期待と深い関心を抱いております。

新入生の皆さんはそれぞれの夢と希望を胸に入学されたことと思います。その夢が皆さんの思い通りに実現することを心から願って止みま

せんが、しかし夢の実現は決して容易ではありません。夢が大きければ大きいほど、その実現に要する努力と忍耐も大きくなります。特に、学部に入學した人たちは、大學受験の準備に明け暮れた高校生活を終えて、今ある種の解放感と満足感・安堵感を感じているのではないのでしょうか。

長い伝統と実績のあるお茶の水女子大学にみごと入学をはたしたあなた方は、当然そのように感じる資格があります。しかしながら、本学への入学があなた方の最終的な夢では断じてないはず。なぜならば、本学での4年間は、あなた方のこれからの長い人生の中のごく短いひと時に過ぎないからです。4年間の大学生活を送る中で、各分野の専門の基礎をしっかりと学びながら、人生の大きな夢を明確にして、そのために必要なことを貪欲に吸収して欲しいと思います。

一方、大学院に入學した皆さんは学部の学生に比べれば夢はより明確であり、入学の目的はよりはっきりしていると信じます。ぜひそうであって欲しいと心から思っています。大学院は高度な知識をもつ専門家養成の課程ですが、もちろんすべての人が研究者・学者になる夢を持っているとも思いませんし、またその必要もありません。たとえそれぞれの夢は違っても、学部で修得した知識と方法を基礎にして、専門性をより深め、幅広い学際的な知識や学問方法を身につけて、将来社会の各分野で指導的な役割を果たし得る人になることがあなた方に課せられた課題です。

今回の大学院改組は全国でもこれまでにない全く新しい形の改組であり、昨日も大学院教官の全体会議が開かれて皆さんの受け入れについて協議が行われました。皆さんの学業の成果は学外の多くの人々も大いに注目しているところです。なお、数日中に後期課程の新しい専攻の入試が行われますので、あなた方の仲間はさらに10数名増える予定です。

学部にせよ大学院にせよ、学生の皆さんがみずから自主的に夢を捜し求めて、その実現に向けて努力する点では、大学というところはまったく同じです。我々教職員はあなた方の夢の探索を助け、努力を支援することを任務とします。しかし、それには一つの条件があります。中国には古くから「朽木は彫るべからず、糞土の牆は朽るべからず」という言葉があり、「くさった朽ち木には彫刻できない。ぼろぼろ崩れる土壁には上塗りすることができない」という意味を表します。孔子が昼寝をしていた弟子に言った言葉として『論語』（公冶長）に見える言葉ですが、つまりは、怠け者には教えようがないという意味で使われます。あなた方も先生方からゆめゆめ「朽木」や「糞土」と言われないように、不断の努力を怠らないでください。

最後に、国立女子大学である本学の特徴の一つをお話して、この告辞の締めくくりにしたいと思います。本学の歴史と伝統については、受験情報や大学案内などで皆さんは概略を知っていると思いますので、ここで特に紹介することを致しません。ただ、男女共同参画型社会の実現が論議されて相当の時間が経過している中で、本学は女性の自立と男女平等社会の実現に向けての実際的な解答を出す社会的な責任をもっていることをお話ししなければなりません。解答の責任は、教職員だけが負うものでももちろんなく、むしろあなた方一人一人が本学での生活とその後の活動を通じて答えを出さなければならぬのです。女性の自立という点では、本学の歴史の中には多くの先駆的な役割をはたした先輩がおりましたし、現にあなた方のお手本となる多くの女性教官が本学にはおられます。女性教官の占める比率は、国立大学の中でも最も高いものです。あなた方が研究者・学者になるならにかかわりなく、女性の先輩として絶好のモデルになる方々が身近に多数おられるわけです。そしてこれまた女子大学の大きな特色の一つと思いますが、数多くの卒業生が頻繁に大

学を訪れて来ます。学問とは別に、女性の生き方という面で、それらの先輩の方々からあなた方はきっと多くの大切なことを学ぶ機会が少ないと思います。

どうか、在学中の健康に十分注意して、後で悔いることのないよう充実した学生生活を送ることを切に希望して告辞と致します。

平成9年4月9日

学長 佐藤 保

◆各種委員会委員◆

1. () は事務担当課
2. *印は委員長又は議長
3. 任期無記入は官職指定
4. 官職は最新のものを掲載
(編集集中の移動についても
できる限り補正をした)

評議会(庶務課)

官 職	氏 名	任 期
学 長	*佐藤 保	9. 2.16~13. 2.15
文 教 育 学 部 学 長	平野 由紀子	8.10. 1~10. 9.30
理 学 部 長	石 和 貞 男	8. 4. 1~10. 3.31
生 活 科 学 部 学 長	小 林 彰 夫	8.10. 1~10. 9.30
家 政 学 部 長	小 林 彰 夫	9. 4. 1~ 9. 9.30
大 学 院 人 間 文 化 研 究 科 学 科 長	徳 丸 吉 彦	9. 4. 1~12. 3.31
附 図 書 館 属 長	大 口 勇 次 郎	8.11. 1~10.10.31
附 学 校 部 属 長	石 川 宏	9. 2.16~11. 3.31
文 教 育 学 部 教 授	土 屋 賢 二	7.10. 1~9. 9.30
文 教 育 学 部 教 授	市 古 夏 生	8.10. 1~9. 9.30
文 教 育 学 部 教 授	山 本 秀 行	8.10. 1~9. 9.30
理 学 部 教 授	藤 原 正 彦	7.10. 1~9. 9.30
理 学 部 教 授	平 野 恒 夫	7.10. 1~9. 9.30
理 学 部 教 授	福 田 豊	9. 4. 1~9. 9.30
生 活 科 学 部 教 授	小 川 昭 二 郎	8.10. 1~10. 9.30

生 活 科 学 部 教 授	島 田 淳 子	8.10. 1~10. 9.30
生 活 科 学 部 教 授	本 間 清 一	8.10. 1~10. 9.30
大 学 院 人 間 文 化 研 究 科 教 授	三 木 紀 人	9. 4. 1~11. 9.30
大 学 院 人 間 文 化 研 究 科 教 授	富 永 靖 徳	9. 4. 1~11. 9.30

(評議会規則第3条に定める者)

官 職	氏 名	任 期
学 生 部 長	五十嵐 脩	
カ リ キ ュ ラ ム 委 員 長	駒 城 素 子	
ジ ェ ン ダ ー 研 究 セ ン タ ー 長	利 谷 信 義	
生 活 環 境 研 究 セ ン タ ー 長	倉 田 忠 男	
事 務 局 長	橋 本 幹 夫	

基本計画委員会(庶務課)

官 職	氏 名	任 期
学 長	*佐藤 保	
文 教 育 学 部 学 長	平野 由紀子	
理 学 部 長	石 和 貞 男	
生 活 科 学 部 学 長 家 政 学 部 学 長	小 林 彰 夫	
大 学 院 人 間 文 化 研 究 科 学 科 長	徳 丸 吉 彦	
附 図 書 館 属 長	大 口 勇 次 郎	

附 学 校 部 属 長	石 川 宏	
学 生 部 長	五十嵐 脩	
事 務 局 長	橋 本 幹 夫	

自己点検・評価検討委員会（庶務課）

官 職	氏 名	任 期
学 長	*佐 藤 保	
文 教 育 学 部 学 長	平 野 由 紀 子	
理 学 部 長	石 和 貞 男	
生 活 科 学 部 学 長 家 政 学 部 学 長	小 林 彰 夫	
大 学 院 人 間 文 化 研 究 科 学 長	徳 丸 吉 彦	
文 教 育 学 部 教 授	山 本 秀 行	
理 学 部 教 授	富 田 功	
生 活 科 学 部 教 授	板 倉 壽 郎	
大 学 院 人 間 文 化 研 究 科 助 教 授	岡 崎 眸	
大 学 院 人 間 文 化 研 究 科 助 教 授	今 野 美 智 子	
ジェンダー 研 究 センター 学 長	利 谷 信 義	
生 活 環 境 研 究 センター 学 長	倉 田 忠 男	
附 図 書 館 属 長	大 口 勇 次 郎	
附 学 校 部 属 長	石 川 宏	

学 生 部 長	五十嵐 脩	
事 務 局 長	橋 本 幹 夫	

国際交流委員会（庶務課）

官 職	氏 名	任 期
学 長	*佐 藤 保	
文 教 育 学 部 学 長	平 野 由 紀 子	
理 学 部 長	石 和 貞 男	
生 活 科 学 部 学 長 家 政 学 部 学 長	小 林 彰 夫	
大 学 院 人 間 文 化 研 究 科 学 長	徳 丸 吉 彦	
文 教 育 学 部 助 教 授	村 松 賢 一	
理 学 部 教 授	福 田 豊	
生 活 科 学 部 師 講	柴 坂 寿 子	9. 4. 1~11. 3.31
大 学 院 人 間 文 化 研 究 科 教 授	渡 辺 ヒサ子	
大 学 院 人 間 文 化 研 究 科 教 授	西 尾 道 子	
学 生 部 長	五十嵐 脩	
文 教 育 学 部 助 教 授	本 郷 逯 子	9. 4. 1~11. 3.31
事 務 局 長	橋 本 幹 夫	

将来構想検討委員会（庶務課）

官 職	氏 名	任 期
文教育学部 教授	鷹野光行	8.10. 1~10. 9.30
文教育学部 助教授	岩崎千鶴	
理学部 教授	真島秀行	
理学部 助教授	藤代一成	
生活科学部 教授	袖井孝子	
生活科学部 助教授	松浦秀治	9. 4. 1~11. 3.31
大学院人間 文化研究科 教授	藤原正彦	
大学院人間 文化研究科 教授	柴田文明	
ジェンダー 研究センター 教授	原ひろ子	
生活環境 研究センター 助教授	富永典子	

発明委員会（庶務課）

官 職	氏 名	任 期
文教育学部 学長	平野由紀子	8.10. 1~10. 9.30
理学部長	石和貞男	
生活科学部 長 家政学部長	小林彰夫	
文教育学部 教授	内藤俊史	8.10. 1~10. 9.30
理学部 教授	細矢治夫	
理学部 教授	福田豊	

生活科学部 助教授	田辺新一	8.10. 1~10. 9.30
大学院人間 文化研究科 助教授	村田容常	9. 4. 1~11. 3.31
生活環境 研究センター 教授	倉田忠男	8.10. 1~10. 9.30

組換えDNA実験安全委員会（庶務課）

官 職	氏 名	任 期
研究者 理学部 教授	*清水 碩	7.12.16 } 9.12.15
研究者 生活環境 研究センター 教授	大橋昌子	
自然科学 理学部 教授	松本勲武	
自然科学 生活科学部 助教授	村田容常	
人文科学 文教育学部 教授	羽入佐和子	
社会科学 生活科学部 助教授	山本政人	7.12.16 } 9.12.15
官職指定 保健管理 センター所長	永川祐三	
官職指定 理事 学務部長	菊池昭夫	
官職指定 生活科学部 事務部長	薄葉章	7.12.16 } 9.12.15
安全 主任者 理学部 教授	馬場昭次	

大学資料委員会

官 職	氏 名	任 期
図書館長	*大口勇次郎	8. 5.22~10. 3.31
文教育学部 教授	小風秀雅	

理学部 教授	竹尾 富貴子	8. 5.22~10. 3.31
生活科学部 教授	小池 三枝	
文教育学部 教授	秋山 光文	
文教育学部 教授	鷹野 光行	
ジェンダー 研究センター 助教授	館 かのる	

事務改善研究委員会（庶務課）

官 職	氏 名	任 期
事務局長	*橋本 幹夫	
庶務課長	井之上 純孝	
会計課長	高橋 平治	
施設課長	鈴木 重之	
学務課長	川野 由美子	
学生課長	森 廣美	
入学主幹	木村 弘利	
庶務課長 補佐	中島 武幸	
会計課長 補佐	加藤 久雄	
施設課長 補佐	小永井 耕一	
学務課長 補佐	中野 公敏	
文教育学部 事務長	高野 佳征	

理事 学務部長	菊池 昭夫	
生活科学部 事務部長	薄葉 章	
附属図書館 事務長	菅野 精子	

レクリエーション運営委員会（庶務課）

官 職	氏 名	任 期
事務局長	*橋本 幹夫	
庶務課長	井之上 純孝	
会計課長	高橋 平治	
施設課長	鈴木 重之	
学務課長	川野 由美子	
学生課長	森 廣美	
入学主幹	木村 弘利	
文教育学部 事務部長	高野 佳征	
理事 学務部長	菊池 昭夫	
生活科学部 事務部長	薄葉 章	
附属図書館 事務長	菅野 精子	
庶務課長 補佐	中島 武幸	
附属学校部 事務室長	中野 公敏	
会計課長 補佐	加藤 久雄	

施設課 長補佐	小永井 耕 一	
学務課 長補佐	中野 公 敏	
研究室 協力長	古賀 智	

ジェンダー研究センター運営委員会 (庶務課)

官 職	氏 名	任 期
ジェンダー 研究 センター長	*利 谷 信 義	
文 教 育 学 部 学 長	平 野 由 紀 子	
理 学 部 長	石 和 貞 男	
生 活 科 学 部 長 家 政 学 部 長	小 林 彰 夫	
大 学 院 人 間 文 科 研 究 科 長	徳 丸 吉 彦	
附 属 図 書 館 長	大 口 勇 次 郎	
ジェンダー 研究センター 教 授	原 ひろ子	
ジェンダー 研究センター 助 教 授	館 かおる	
文 教 育 学 部 教 授	天 野 正 子	
理 学 部 教 授	室 伏 きみ子	8. 5.21~10. 3.31
生 活 科 学 部 教 授	田 中 辰 明	
大 学 院 人 間 文 化 研 究 科 教 授	清 水 碩	9. 4. 1~10. 3.31
事 務 局 長	橋 本 幹 夫	

生活環境研究センター運営委員会 (庶務課)

官 職	氏 名	任 期
生 活 環 境 研 究 セ ン ター 長	*倉 田 忠 男	
文 教 育 学 部 学 長	平 野 由 紀 子	
理 学 部 長	石 和 貞 男	
生 活 科 学 部 長 家 政 学 部 長	小 林 彰 夫	
生 活 環 境 研 究 セ ン ター 教 授	五 十 嵐 脩	
生 活 環 境 研 究 セ ン ター 教 授	大 橋 昌 子	
生 活 環 境 研 究 セ ン ター 助 教 授	富 永 典 子	
文 教 育 学 部 教 授	千 歳 壽 一	9. 4. 1~11. 3.31
理 学 部 教 授	松 本 勲 武	
生 活 科 学 部 教 授	田 中 辰 明	8. 4. 1~10. 3.31
生 活 科 学 部 教 授	本 間 清 一	
大 学 院 人 間 文 化 研 究 科 教 授	芦 原 担	9. 4. 1~11. 3.31
事 務 局 長	橋 本 幹 夫	

共通機器センター運営委員会

官 職	氏 名	任 期
セ ン ター 長	平 野 恒 夫	8.12. 1~10.11.30
文 教 育 学 部 教 授	春 日 喬	8. 4. 1~10. 3.31
文 教 育 学 部 教 授	千 歳 壽 一	9. 4. 1~11. 3.31

理学部教授	室伏 きみ子	8. 4. 1~10. 3.31
理学部教授	浜谷 望	9. 4. 1~11. 3.31
生活科学部教授	小川 昭二郎	8. 4. 1~10. 3.31
生活科学部助教授	村田 容常	9. 4. 1~11. 3.31
大学院人間文化研究科教授	松本 勲武	8. 4. 1~10. 3.31
大学院人間文化研究科助教授	林 正男	9. 4. 1~11. 3.31
生活環境研究センター教授	大橋 昌子	9. 4. 1~11. 3.31

予算委員会 (庶務課)

官職	氏名	任期
文教育学部長	平野 由紀子	
理学部長	石和 貞男	
生活科学部長 家政学部長	小林 彰夫	
大学院人間文化研究科長	徳丸 吉彦	
文教育学部教授	春日 喬	9. 4. 1~11. 3.31
文教育学部教授	千歳 壽一	9. 4. 1~10. 9.30
理学部教授	松本 勲武	9. 4. 1~11. 3.31
理学部教授	塚田 和美	8. 4. 1~10. 3.31
生活科学部教授	富田 守	9. 4. 1~10. 3.31
生活科学部教授	板倉 壽郎	9. 4. 1~11. 3.31

大学院人間文化研究科教授	上野 浩道	9. 4. 1~11. 3.31
大学院人間文化研究科教授	清水 碩	9. 4. 1~10. 3.31
図書館 属長	*大 口 勇次郎	
ジェンダー研究センター長	利谷 信義	
生活環境研究センター長	倉田 忠男	
事務局長	橋本 幹夫	
学生部長	五十嵐 脩	
会計課長	高橋 平治	

防災委員会 (会計課)

官職	氏名	任期
学 長	*佐藤 保	
文教育学部長	平野 由紀子	
理学部長	石和 貞男	
生活科学部長 家政学部長	小林 彰夫	
大学院人間文化研究科長	徳丸 吉彦	
図書館 属長	大 口 勇次郎	
附学校部 属長	石川 宏	
学生部長	五十嵐 脩	
保健管理センター所長	永川 祐三	

事務局長	橋本幹夫	
庶務課長	井之上純孝	
会計課長	高橋平治	
施設課長	鈴木重之	
学務課長	川野由美子	
学生課長	森廣美	

購入物品機種選定委員会 (会計課)

官職	氏名	任期
文教教育学部助教授	杉谷隆	8. 4. 1~10. 3.31
文教教育学部助教授	石黒節子	
理学部助教授	浜谷望	
理学部助教授	富田功	
生活環境研究センター助教授	倉田忠男	
生活科学部助教授	本間清一	
大学院人間文化研究科助教授	大塚恵	9. 4. 1~11. 3.31

施設計画委員会 (施設課)

官職	氏名	任期
学長	*佐藤保	
文教教育学部長	平野由紀子	

理学部長	石和貞男	
生活科学部部長 家政学部長	小林彰夫	
大学院人間文化研究科部長	徳丸吉彦	
文教教育学部助教授	山本秀行	8. 4. 1~ 9. 9.30
文教教育学部助教授	杉谷隆	7.10. 1~ 9. 9.30
理学部助教授	福田豊	9. 4. 1~11. 3.31
理学部助教授	馬場昭次	8. 4. 1~10. 3.31
生活科学部助教授	小池三枝	8. 4. 1~10. 3.31
生活科学部助教授	田中辰明	8. 4. 1~10. 3.31
大学院人間文化研究科助教授	富永靖徳	9. 4. 1~11. 3.31
大学院人間文化研究科助教授	杉田孝夫	9. 4. 1~11. 3.31
附属図書館長	大口勇次郎	
附学校部部長	石川宏	
ジェンダー研究センター長	利谷信義	
生活環境研究センター長	倉田忠男	
事務局長	橋本幹夫	
学生部長	五十嵐脩	
カリキュラム委員会委員長	駒城素子	

館山施設計画委員会（施設課）

官 職	氏 名	任 期
理学部長	*石 和 貞 男	
文教育学部 助 教 授	本 田 郁 子	8. 4. 1~10. 3.31
文教育学部 教 授	加 賀 秀 夫	7.10. 1~ 9. 9.30
理 学 部 教 授	清 水 碩	8. 4. 1~10. 3.31
生活科学部 助 教 授	久保田 紀久枝	8.10. 1~10. 9.30
理 学 部 教 授	根 本 心 一	
附 属 高 等 学 校 教 頭	早 崎 捷 治	
附 属 中 学 校 教 頭	井 上 泰 次	
附 属 小 学 校 教 頭	星 野 征 男	
附 属 幼 稚 園 教 頭	梶 田 正 子	
学 生 部 長	五十嵐 脩	
事 務 局 長	橋 本 幹 夫	
会 計 課 長	高 橋 平 治	
施 設 課 長	鈴 木 重 之	

廃水管理委員会（施設課）

官 職	氏 名	任 期
生 活 環 境 研 究 セ ン タ ー 助 教 授	*富 永 典 子	9. 4. 1~ 9. 9.30
文 教 育 学 部 助 教 授	杉 谷 隆	

理 学 部 教 授	松 浦 悦 子	
理 学 部 教 授	浜 谷 望	
理 学 部 教 授	藤 枝 修 子	7.10. 1~ 9. 9.30
生 活 科 学 部 助 教 授	久 保 田 紀 久 枝	
生 活 科 学 部 助 教 授	仲 西 正	
大 学 院 人 間 文 化 研 究 科 教 授	永 野 肇	9. 4. 1~11. 3.31
附 属 高 等 学 校 教 諭	石 井 朋 子	7.10. 1~ 9. 9.30
附 属 中 学 校 教 諭	佐々木 和 枝	
会 計 課 長	高 橋 平 治	
施 設 課 長	鈴 木 重 之	

カリキュラム委員会（学務課）

官 職	氏 名	任 期
文 教 育 学 部 教 授	秋 山 光 文	8. 4. 1~10. 3.31
文 教 育 学 部 教 授	安 田 次 郎	8. 4. 1~10. 3.31
文 教 育 学 部 助 教 授	菅 野 健	9. 4. 1~11. 3.31
理 学 部 助 教 授	榎 本 陽 子	8. 4. 1~10. 3.31
理 学 部 教 授	菅 本 晶 夫	9. 4. 1~11. 3.31
理 学 部 教 授	益 田 祐 一	9. 4. 1~11. 3.31
生 活 科 学 部 教 授	*駒 城 素 子	8. 4. 1~10. 3.31

生活科学部 助教授	杉田孝夫	8.11.27~10.3.31
生活科学部 助教授	山本政人	9.4.1~11.3.31
学生部長	五十嵐 脩	

公開講座委員会 (学務課)

官職	氏名	任期
文教育学部 助教授	栗原尚子	8.12.1~10.11.30
文教育学部 教授	羽入佐和子	7.12.1~9.11.30
文教育学部 教授	中村弓子	7.12.1~9.11.30
理学部 教授	山下貴司	8.12.1~10.11.30
理学部 助教授	小野 薫	9.4.1~9.11.30
理学部 助教授	山田真二	9.4.1~9.11.30
生活科学部 教授	*田中辰明	7.12.1~9.11.30
生活科学部 助教授	田辺新一	8.12.1~10.11.30
生活科学部 助教授	御船美智子	8.12.1~10.11.30
学生部長	五十嵐 脩	

学生委員会 (学生課)

官職	氏名	任期
文教育学部 助教授	三浦 謙	8.4.1~11.3.31
文教育学部 助教授	内田忠賢	8.7.20~10.3.31

文教育学部 助教授	竹村和子	9.4.1~11.3.31
理学部 助教授	*吉田裕亮	7.4.1~10.3.31
理学部 教授	室伏きみ子	8.4.1~11.3.31
理学部 助教授	小野 薫	9.4.1~11.3.31
生活科学部 助教授	鈴木恵美子	7.4.1~10.3.31
生活科学部 助教授	村田容常	9.4.1~11.3.31
生活科学部 助教授	久保田紀久枝	9.4.1~11.3.31
学生部長	五十嵐 脩	

共用体育施設等管理運営委員会 (学生課)

官職	氏名	任期
文教育学部 助教授	*杉山 進	8.6.16~10.6.15
学生部長	五十嵐 脩	
附属 学校部長	石川 宏	
会計課長	高橋平治	
学生課長	森 廣美	

保健管理センター運営委員会 (学生課)

官職	氏名	任期
保健管理 センター所長	*永川祐三	
文教育学部 助教授	杉山 進	9.4.1~11.3.31

文教育学部 助教	本田郁子	8. 4. 1~10. 3.31
理学部 教授	藤枝修子	9. 4. 1~11. 3.31
理学部 助教	前田ミチエ	8. 4. 1~10. 3.31
生活科学部 教授	富田守	9. 4. 1~11. 3.31
生活科学部 教授	榆木満生	9. 4. 1~10. 3.31
大学院人間 文化研究科 助教	會川義寛	9. 4. 1~11. 3.31
附属 小学校教諭	高木悦子	8. 4. 1~10. 3.31
学生部長	五十嵐 脩	
事務局長	橋本幹夫	

入学試験委員会（入学主幹室）

官 職	氏 名	任 期
学 長	*佐藤保	
学生部長	五十嵐 脩	
文教育学部 部長	平野由紀子	
理学部長	石和貞男	
生活科学部 部長 家政学部 部長	小林彰夫	
文教育学部 助教	永原恵三	8. 4. 1~10. 3.31
文教育学部 助教	熊谷圭知	9. 4. 1~11. 3.31
理学部 教授	笠原勇二	8. 4. 1~10. 3.31

理学部 教授	塚田和美	9. 4. 1~11. 3.31
生活科学部 教授	無藤隆	8. 4. 1~10. 3.31
生活科学部 助教	大塚 恵	9. 4. 1~11. 3.31
事務局長	橋本幹夫	
保健管理 センター所長	永川祐三	
情報処理 センター長	細矢治夫	

入学者選抜方法研究委員会（入学主幹室）

官 職	氏 名	任 期
文教育学部 助教	内田忠賢	8. 4. 1~10. 3.31
文教育学部 助教	石口 彰	9. 4. 1~11. 3.31
理学部 教授	笠原勇二	8. 4. 1~10. 3.31
理学部 教授	*塚田和美	9. 4. 1~11. 3.31
生活科学部 助教	御船美智子	8. 4. 1~10. 3.31
生活科学部 助教	田辺新一	9. 4. 1~11. 3.31
学生部長	五十嵐 脩	
カリキュラム 委員会 委員長	駒城素子	

学芸員課程委員会 (文教育学部事務部)

官 職	氏 名	任 期
文教育学部 教 授	春 日 喬	8.10. 1~10. 9.30
文教育学部 教 授	小 川 剛	
文教育学部 教 授	*鷹 野 光 行	
文教育学部 教 授	秋 山 光 文	
文教育学部 教 授	安 田 次 郎	
文教育学部 助 教 授	熊 谷 圭 知	
文教育学部 教 授	市 古 夏 生	
理 学 部 教 授	山 下 貴 司	
生活科学部 助 教 授	徳 井 淑 子	

理学部附属臨海実験所運営委員会 (理学部事務部)

官 職	氏 名	任 期
理 学 部 長	*石 和 貞 男	8. 4. 1~10. 3.31
理学部附属 臨海実験 所 長	根 本 心 一	
大学院人間 文化研究 科 教 授	富 永 靖 徳	
理 学 部 教 授	松 本 勲 武	9. 4. 1~10. 3.31
理 学 部 教 授	山 下 貴 司	
理 学 部 師 範	清 本 正 人	8. 4. 1~10. 3.31
文教育学部 教 授	千 歳 壽 一	8. 4. 1~10. 3.31

文教育学部 助 教 授	内 田 忠 賢	9. 4. 1~11. 3.31
生活科学部 教 授	本 間 清 一	8. 4. 1~10. 3.31
生活環境 研究センター 教 授	大 橋 昌 子	
会 計 課 長	高 橋 平 治	
施 設 課 長	鈴 木 重 之	

理学部ラジオアイソトープ実験室運営委員会

(理学部事務部)

官 職	氏 名	任 期
理 学 部	*石 和 貞 男	8. 4. 1~10. 3.31
RI実験室長	松 本 勲 武	
放射線 取扱主任者	古 田 悦 子	
文教育学部 助 教 授	杉 谷 隆	8.10. 1~10. 9.30
理 学 部 教 授	浜 谷 望	
理 学 部 教 授	芦 原 坦	7.10. 1~ 9. 9.30
理 学 部 助 教 授	小 川 温 子	
生活科学部 助 教 授	大 塚 恵	
生活環境 研究センター 助 教 授	富 永 典 子	

理学部極低温実験室運営委員会 (理学部事務部)

官 職	氏 名	任 期
理 学 部 長	*石 和 貞 男	

極低温実験室 実長	浜谷 望	8. 4. 1~10. 3.31
大学院人間文化研究科 教授	伊藤 厚子	
理学部 教授	永野 肇	
理学部 教授	根本 心一	
生活科学部 助教	畑江 敬子	

情報処理センター運営委員会（理学部事務部）

官職	氏名	任期
情報処理センター 長	*細 矢治夫	8.10. 1~10. 9.30
情報処理センター 主任 理学部助教	浅本 紀子	
文教育学部 教授	千歳 壽一	9. 4. 1~10. 9.30
文教育学部 助教	石口 彰	
理学部 教授	平野 恒夫	
理学部 助教	小林 功佳	8.10. 1~10. 9.30
生活科学部 助教	畑江 敬子	
生活科学部 助教	田辺 新一	8.10. 1~10. 9.30
大学院人間文化研究科 助教	耳塚 寛明	
ジェンダー 研究センター 助教	館 かおる	
生活環境 研究センター 助教	富永 典子	
附属 図書館 長	大口 勇次郎	

学生部長	五十嵐 脩	
カリキュラム 委員会 委員長	駒城 素子	

附属図書館運営委員会（附属図書館事務部）

官職	氏名	任期
附属 図書館 長	*大 口 勇次郎	
文教育学部 助教	古田 啓	8. 4. 1~10. 3.31
文教育学部 助教	佐藤 光子	9. 4. 1~10. 9.30
理学部 助教	亀井 理	8. 4. 1~10. 3.31
理学部 助教	鷹野 景子	
生活科学部 教授	袖井 孝子	
生活科学部 助教	大塚 恵	9. 4. 1~11. 3.31
大学院人間文化研究科 助教	出口 哲生	9. 6. 1~11. 5.31
大学院人間文化研究科 教授	相原 茂	9. 6. 1~11. 5.31
ジェンダー 研究センター 教授	原 ひろ子	8. 4. 1~10. 3.31
生活環境 研究センター 教授	大橋 昌子	8. 4. 1~10. 3.31
カリキュラム 委員会 委員長	駒城 素子	

附属学校委員会（庶務課）

官職	氏名	任期
附属 学校部 長	*石 川 宏	

文教育学部 教授	海老根 静 江	9. 4. 1~11. 3.31
理 学 部 教 授	藤 枝 修 子	8. 4. 1~10. 3.31
生活科学部 教 授	島 田 淳 子	8. 4. 1~10. 3.31
事 務 局 長	橋 本 幹 夫	
附 小 学 校 属 長	高 島 元 洋	
附 中 学 校 属 長	田 宮 兵 衛	
附 高 等 学 校 属 長	渡 辺 ヒサ子	
附 幼 稚 園 属 長	黒 田 淑 子	
附 小 学 校 教 頭	星 野 征 男	
附 中 学 校 教 頭	井 上 泰 次	
附 属 高 等 学 校 教 頭	早 崎 捷 治	
附 幼 稚 園 教 頭	栴 田 正 子	

附属学校教育研究委員会（庶務課）

官 職	氏 名	任 期
附 学 校 部 属 長	*石 川 宏	
文教育学部 助 教 授	牛 江 ゆき子	9. 2.16~10. 3.31
理 学 部 教 授	藤 枝 修 子	8. 4. 1~10. 3.31
生活科学部 教 授	牧 野 カツコ	8. 4. 1~10. 3.31
文教育学部 人 間 社 会 科 教 授	駒 込 武	9. 4. 1~11. 3.31

生活科学部 人 間 生 活 学 科 助 教 授	伊 藤 美 奈 子	9. 4. 1~10. 3.31
附 小 学 校 属 長	高 島 元 洋	
附 中 学 校 属 長	田 宮 兵 衛	
附 高 等 学 校 属 長	渡 辺 ヒサ子	
附 幼 稚 園 属 長	黒 田 淑 子	
附 小 学 校 教 頭	星 野 征 男	
附 中 学 校 教 頭	井 上 泰 次	
附 属 高 等 学 校 教 頭	早 崎 捷 治	
附 幼 稚 園 教 頭	栴 田 正 子	
附 小 学 校 教 諭	相 原 貴 史	8. 4. 1~10. 3.31
	成 田 信 子	9. 4. 1~11. 3.31
附 中 学 校 教 諭	山 梨 八 重 子	8. 4. 1~10. 3.31
	加々美 勝 久	9. 4. 1~11. 3.31
附 属 高 等 学 校 教 諭	木 村 政 子	8. 4. 1~10. 3.31
	中津川 義 治	9. 4. 1~11. 3.31
附 幼 稚 園 教 諭	伊集院 理 子	8. 4. 1~10. 3.31
	田 中 美 保 子	9. 4. 1~11. 3.31

創立120周年記念事業特別委員会（庶務課）

官 職	氏 名	任 期
学 長	*佐 藤 保	
文 教 育 学 部 学 長	平 野 由 紀 子	
理 学 部 長	石 和 貞 男	
生 活 科 学 部 学 長	小 林 彰 夫	
大 学 院 人 間 文 化 研 究 科 学 長	徳 丸 吉 彦	
文 教 育 学 部 教 授	窪 添 慶 文	
文 教 育 学 部 教 授	秋 山 光 文	
理 学 部 教 授	小 川 洋 輔	
理 学 部 教 授	細 矢 治 夫	
生 活 環 境 研 究 セ ン タ ー 教 授	五 十 嵐 脩	
生 活 科 学 部 教 授	島 田 淳 子	
大 学 院 人 間 文 化 研 究 科 教 授	上 野 浩 道	
大 学 院 人 間 文 化 研 究 科 教 授	田 中 真 砂 子	
附 属 図 書 館 長	大 口 勇 次 郎	
附 属 学 校 部 長	石 川 宏	
学 生 部 長	五 十 嵐 脩	
事 務 局 長	橋 本 幹 夫	

○学科主任

学 部	学 科 等	職 名	氏 名	
文教育学部	哲 学 科	教 授	羽 入 佐和子	
	史 学 科	〃	安 田 次 郎	
	地 理 学 科	助教授	栗 原 尚 子	
	国 文 学 科	教 授	鈴 木 泰	
	外 国 文 学 科			
	中国文学・中国語学	〃	相 原 茂	
	英文学・英語学	〃	海老根 静 江	
	独文学・独語学	〃	石 丸 昭 二	
	仏文学・仏語学	〃	中 村 弓 子	
	教 育 学 科			
	教 育 学	〃	鷹 野 光 行	
	心 理 学	〃	春 日 喬	
	舞 踊 教 育 学 科			
	舞 踊 教 育 学	〃	片 岡 康 子	
	音 楽 教 育 学	助教授	林 廣 子	
	人 文 科 学 科	教 授	安 田 次 郎	
	言 語 文 化 学 科	〃	相 原 茂	
	人 間 社 会 科 学 科	〃	春 日 喬	
	芸 術 ・ 表 現 行 動 学 科	助教授	林 廣 子	
理 学 部	数 学 科	教 授	真 島 秀 行	
	物 理 学 科	〃	太 田 隆 夫	
	化 学 科	〃	藤 枝 修 子	
	生 物 学 科	〃	芦 原 坦	
	情 報 科 学 科	〃	細 矢 治 夫	
家 政 学 部	食 物 学 科	〃	島 田 淳 子	
生 活 科 学 部	生 活 環 境 学 科	〃	小 川 昭 二 郎	
	人 間 生 活 学 科	〃	篠 塚 英 子	

新任部局長紹介

人間文化研究科長

(任期 平成9年4月1日～平成12年3月31日)



氏名 徳丸 吉彦

生年月日 昭和11年12月5日

専攻 音楽学

〔略歴〕

昭和35年3月 東京大学文学部卒業
昭和38年3月 同 大学院人文科学研究科美学芸術学専門課程修士修了
昭和38年4月 国立音楽大学専任講師
昭和41年12月 同 助教授
昭和47年4月 お茶の水女子大学文教育学部助教授
昭和57年4月 同 教授

〔モットー〕

NIHIL REPUTARE INSULATUM.

「何事も孤立していると思わないこと」という自作の文章。

〔趣味〕

飲み物と食べ物についての本を読み、自分で経験し、味覚を鍛え、腕を磨くこと。

〔就任の言葉〕

この春本学の大学院の制度が変わりました。修士と博士のためのすべての専攻が人間文化研究科という一つの大学院に統合されたのです。これは、前研究科長の森隆夫先生を中心に準備をなさった先生方と、先見性と実行力のある事務局とが協力して作りあげたものです。本学の発展にとって画期的な意義をもつ変革です。

その準備期間中、私はこの変革に関与せず、ヴェトナムのフエ大学に宮廷音楽のコースを作る手伝いや、世界音楽の百科全書の編集などをしておりました。それが、突然に、新しい研究科長に選出されてしまいました。今は、約束していた外国の学会や集中講義のキャンセルをする一方、自分の頭をリハビリしながら、新しい人間文化研究科を効率的・生産的に運営するために努力しているところです。

研究科の将来は、教官と院生が上質の研究成果をどれだけ多く出すかにかかっています。教官・事務局・院生の皆様のご協力をお願いします。

学生部長

(任期 平成9年4月1日～平成11年3月31日)



氏名 五十嵐 勲

生年月日 昭和9年10月20日

専攻 栄養生化学
ビタミン学

〔略歴〕

昭和32年3月 東京大学農学部卒業
昭和34年3月 同 大学院化学系研究科農芸化学専門課程修士修了
昭和35年4月 東京大学農学部助手
昭和42年11月 お茶の水女子大学家政学部付属食物化学研究施設助教授
昭和55年4月 同 生活環境研究センター助教授
昭和57年1月 同 教授

〔モットー〕

新しい研究の成果をやさしく伝達すること。

〔趣味〕

昔はゴルフやテニスも趣味の内に入っていました。一時膝を痛めてから、遠ざかっています。

現在は園芸で、日曜日は樹木の剪定や鉢植えの植えかえなどに追われています。

〔就任の言葉〕

大学はこれから変革の時代に入ると予想されます。学生部も従来の枠にとらわれずに新しい発想で、問題の対処に当たりたいと思います。学生各個人の才能を十分発揮できるような大学であって欲しいと思います。

学生部の仕事は多岐にわたりますので、事務の方々と協力して、学生諸君が快適な学生生活を送れるように配慮したいと思います。

事務局長



氏名 橋本 幹夫

生年月日 昭和20年7月27日

〔略歴〕

昭和43年3月 東京理科大学理学部卒業
昭和43年4月 官房統計課
昭和47年4月 同 第三調査係長
昭和47年5月 同 情報処理課第三電子計算機係長
昭和50年4月 同 第二電子計算機係長
昭和52年4月 熊本大学庶務部情報処理課長
昭和55年9月 九州大学庶務部庶務課長
昭和57年12月 官房調査統計課課長補佐
昭和59年11月 社会教育局学習情報課教育メディア
調査官
昭和61年8月 同 社会教育官
昭和63年7月 生涯学習局社会教育官
平成2年4月 官房政策課情報処理室長
平成6年7月 岡崎国立共同研究機構管理局長
平成9年4月 お茶の水女子大学事務局長

〔モットー〕

「自問自答」

〔趣味〕

折り紙、ゴルフ

〔就任の言葉〕

15年振りの大学勤務になりますが、本学は新しい体制での大学院がスタートしたところですので、大学院と共に新たな気持ちで、学長のご指導のもと、大学の運営・教育研究体制の整備充実に努めたいと思います。

よろしくお願ひ致します。

人 事

人 事 異 動

発令年月日	氏 名	官 職 等	異 動 前 の 所 属 ・ 職 名
◇ 退 職			
9. 3. 31	大田 澤 輝 子	平成9年3月31日限り定年退職	学生課専門員
"	田 中 恭 美	"	会計課自動車運転手
"	鈴 木 晴 康	辞 職 承 認	保健管理センター看護婦
"	北 根 康 章	"	事務局長
"	菅 原 慶 子	"	生活科学部
"	泉 吉 子	"	助手 (文教育学部)
"	住 吉 純 路	"	"
"	関 田 福 子	"	助手 (大学院人文科学研究科)
"	福 川 口 良 恵	"	"
"	森 幸 悌 一	"	助手 (理学部)
"	水 野 悌 一	"	教授 (生活科学部)
"	飯 長 喜 一 郎	"	"
"	入 江 文 子	"	助手 (生活科学部)
"	藤 裕 紀 子	"	"
"	早 川 文 代	"	助手 (大学院人間文化研究科)
"	喜 冨 加 実 代	"	"
"	勝 部 知 子	"	"
"	紀 井 利 臣	"	附属高等学校教諭
"	浅 川 陽 子	"	附属小学校 教諭
9. 4. 1	浅 井 清 夫	平成9年3月31日限り停年退職	教授 (文教育学部)
"	森 隆 悦	"	"
"	平 田 村 朗 男	"	教授 (大学院人文科学研究科)
"	高 田 幸 翠	"	教授 (理学部)
"	小 山 敏 子	"	"
"	荒 川 信 彦	"	教授 (生活科学部)
◇ 採 用			
9. 3. 1	小 林 哲 幸	助教授 (理学部)	
9. 4. 1	平 岡 公 一	助教授 (文教育学部)	
"	酒 井 聡 子	"	
"	菅 々 木 泰 子	講 師 (文教育学部)	
"	内 田 安 伊 子	助 手 (文教育学部)	
"	宇 佐 見 尚 子	"	
"	高 木 友 子	"	
"	川 端 雅 人	"	
"	榆 木 満 子	教 授 (生活科学部)	
"	伊 藤 美 奈 子	助教授 (生活科学部)	
"	高 梨 千 恵 子	助 手 (生活科学部)	
"	松 下 み どり	助 手 (大学院人間文化研究科)	
"	森 田 朋 子	"	
"	佐 野 信 子	"	
"	仙 頭 理 恵 子	附属小学校教諭	
"	芳 澤 結 花	附属中学校教諭	
"	大 村 雄 介	"	
"	吉 村 雅 利	附属高等学校教諭	
◇ 昇 任			
9. 3. 1	千 葉 和 義	助教授 (理学部)	助手 (東京工業大学生命理工学部生理学科分子発生学講座)

発令年月日	氏名	官職等	異動前の所属・職名
9. 4. 1	柿澤秀春	庶務課専門員	学務課専門職員
"	岩田光夫	学生課専門職員	会計課総務係総務主任
"	吉原道隆	入学主幹付入学試験係長	会計課出納係出納主任
"	八重樫博	施設課設備係設備主任	施設課
"	大山信一	附属図書館総務係総務主任	附属図書館
"	村松賢一	助教授(文教育学部)	講師(文教育学部)
"	加藤朋哲	講師(山梨大学教育学部)	助手(文教育学部)
"	市川哲彦	助教授(理学部)	助手(理学部)
"	牧野カツコ	教授(生活科学部)	助教授(生活科学部)

◇ 配置換

9. 4. 1	橋本幹夫	事務局長	岡崎国立共同研究機構管理局长
"	鈴木重進	施設課長	横浜国立大学施設部企画課長
"	老田廣美	筑波大学施設部建築課長	施設課長
"	森野博正	学生課長	国立オリンピック記念青少年総合センター業務課長
"	三原正	千葉大学総務部学生課長	学生課長
"	海老原葵	学生課専門員	庶務課専門員
"	峯村薫	学務課専門職員(教務担当)	会計課総務係長
"	柴田正造	庶務課大学院係長	会計課司計係長
"	田沼洋文	庶務課附属学校係長	入学主幹付入学試験係長
"	高田洋一	会計課総務係長	庶務課大学院係長
"	村上恭二	会計課司計係長	会計課管財係長
"	岡田健一	会計課管財係長	庶務課附属学校係長
"	村山正栄	施設課企画係長	附属図書館総務係長
"	斉藤正由	学務課教務係長	施設課企画係長
"	和賀啓子	学務課留学生係長	学生課就職保健係長
"	鎌田啓子	学生課専門職員	学務課留学生係長
"	菊池政樹	附属図書館総務係長	文教育学部総務係長
"	渋谷正巳	文教育学部総務係長	学務課教務係長
"	河野隆巳	生活科学部総務係学務主任	庶務課庶務係庶務主任
"	深川太郎	庶務課	学生課
"	小西由子	"	文教育学部
"	浅田東子	文教育学部	学生課
"	三木紀人	教授(文教育学部)	教授(大学院人文科学研究科)
"	長友和彦	"	"
"	西澤奈津子	助教授(文教育学部)	助教授(大学院人文科学研究科)
"	本郷遼子	"	"
"	岡崎眸晃	教授(理学部)	"
"	河村哲也	教授(大学院人間文化研究科)	教授(東京大学大学院数理学研究科)
"	河佐藤浩史	"	教授(理学部)
"	富永靖徳	"	"
"	伊藤厚子	"	"
"	坂元章生	助教授(大学院人間文化研究科)	助教授(文教育学部)
"	出口哲也	"	助教授(理学部)
"	堀佳也	"	"
"	今野美智子	"	"

◇ 転任

9. 4. 1	羽根ひろの	会計課给与係给与主任	国立歴史民俗博物館管理部庶務課共同利用係共同利用主任
"	渡邊暢宏	会計課	国立歴史民俗博物館管理部 会計課
"	今井千恵子	国立歴史民俗博物館管理部展示課	庶務課
"	水野勲	助教授(文教育学部)	助教授(宮崎大学教育学部)
"	田中康善	附属小学校教諭	東京学芸大学教育学部附属世田谷小学校教諭
"	田中美也子	教授(北海道教育大学教育学部)	附属中学校教諭

◎ 外国人教師

発令年月日	氏名		異動区分	
9. 4. 1	エドワード・J・ シェファー	契約更新 期間 9. 4. 1～10. 3. 31	契 約	
〃	オリヴァント・ヒュー・ ファーガス	契約更新 期間 9. 4. 1～10. 3. 31	〃	
〃	タキ・シロ・ シヤンタル	契約更新 期間 9. 4. 1～10. 3. 31	〃	
〃	宋 燕	契約（新規） 期間 9. 4. 1～10. 3. 31	〃	

◎ 外国人研究員

発令年月日	氏名		異動区分	
9. 4. 1	私 ジェイン	契約更新 期間 9. 4. 1～ 9. 4. 30	契 約	

◎ 非常勤講師

発令年月日	氏名	官職等	任期	備考
◇ 採用				
9. 4. 1	窪田高明	講師 (文教育学部)	9. 9. 30	神田外語大学教授
"	丸山裕美	"	"	"
"	老川慶喜	"	"	立教大学助教授
"	岩田みゆ	"	"	神奈川大学日本常民文化研究所職員
"	佐藤道生	"	10. 3. 31	慶應義塾大学助教授
"	日林向一	"	"	明治大学教授
"	田中久美	"	"	駒沢大学教授
"	塚本陽宏	"	9. 9. 30	和洋女子大学助教授
"	笹倉陽美	"	10. 3. 31	"
"	黒田真佳	"	"	"
"	富山太智	"	"	成城大学教授
"	今井佐智	"	9. 9. 30	共立女子短期大学教授
"	伊藤頼洋	"	10. 3. 31	"
"	長谷川正一郎	"	"	横浜市立大学教授
"	横山裕人	"	"	国際基督教大学助教授
"	宮島喬子	"	9. 9. 30	立教大学教授
"	植野妙実	"	"	中央大学教授
"	伊藤隆悦	"	"	東洋大学教授
"	福田須美	"	10. 3. 31	"
"	小松光一	"	9. 9. 30	相模女子大学助教授
"	齐藤利彦	"	"	"
"	明田芳久	"	10. 3. 31	学習院大学教授
"	重野千純	"	9. 9. 30	上智大学教授
"	渡村夏子	"	"	北里大学助教授
"	長松善弘	"	"	(社)日本フォークダンス連盟事務局長
"	厚木直隆	"	"	"
"	酒井重秀	"	"	横浜市立大学整形外科医局長
"	笹沼高太郎	"	"	日本女子体育大学講師
"	芝田敬子	"	"	立教大学助教授
"	小林敬子	"	10. 3. 31	"
"	小戸瀬信子	"	9. 9. 30	日本女子体育大学教授
"	向井万里	(理学部)	10. 3. 31	慶應義塾大学助教授
"	池田和正	"	"	"
"	風間重雄	"	9. 9. 30	中央大学教授
"	西尾静恵	"	10. 3. 31	"
"	荻原俊暢	"	9. 9. 30	"
"	中若槻康	"	"	"
"	千渡丈昇	"	"	東京理科大学教授
"	渡可靖	"	"	東京理科大学講師
"	白知山晋	"	10. 3. 31	"
"	江藤弥生子	(生活科学部)	9. 9. 30	文化女子大学講師
"	木村美智子	"	"	桜の聖母短期大学助教授
"	千葉百子	"	"	順天堂大学助教授
"	中山茂夫	"	"	神奈川大学教授
"	布施中雅	"	10. 3. 31	"
"	平野美那	"	9. 9. 30	"
"	浜島教子	"	"	聖徳栄養短期大学教授

発令年月日	氏名	官職等	任期	備考
9. 4. 1	飯原貞明	講師 (生活科学部)	9. 9. 30	和洋女子大学教授
"	江原真子	"	"	東京家政学院大学助教授
"	長尾慶子	"	"	文教大学助教授
"	小田田静	"	"	東京都教育庁生涯学習部文化課 学芸員
"	佐竹隆学	"	"	日本大学講師
"	岩崎学樹	"	"	成蹊大学助教授
"	豊田秀子	"	10. 3. 31	立教大学助教授
"	常田秀子	"	9. 9. 30	文京女子短期大学助教授
"	平山江子	"	"	"
"	小藤美子	"	"	国立音楽大学教授
"	大貫敬一	"	"	共立女子大学助教授
"	曾根海子	"	"	"
"	熱林則廓	"	"	日本体育大学教授
"	山本讓仁	"	"	"
"	木田康淳	"	"	立教大学教授
"	田嶋秀樹	"	"	淑徳大学助教授
"	渡辺和夫	"	"	慶應義塾大学教授
"	高橋正	"	"	放送大学学園助教授
"	竹内正	"	"	桐蔭学園横浜大学教授
"	石井昌子	"	"	カリフォルニア大学東京学習センター長
"	末松弘行	"	"	川村学園女子大学教授
"	荒井木郎	"	"	"
"	鈴木二達	"	9. 9. 30	東邦大学教授
"	石大郎	(大学院人間文化研究科)	"	慶應義塾大学教授
"	大林廓	"	"	国際武道大学教授
"	伊藤信	"	"	"
"	高井取	"	"	中央大学助教授
"	香下幸美	"	"	"
"	大阿清	講師(研究機関研究員) (生活環境研究センター)	10. 3. 31	"
"	澤田美	"(研究機関研究員) (生活環境研究センター)	"	"
"	加嶋吉	講師 (附属高等学校)	"	"
"	津留由紀	" (附属中学校)	"	"
"	竹村朝	"	"	"
"	稲毛美	"	"	"
"	佐藤健	"	"	"
"	岩間里	" (附属幼稚園)	"	"
"	渡辺和	学校歯科医 (附属高等学校)	"	"

◇ 任用更新

9. 4. 1	野本和幸	講師 (文教育学部)	10. 3. 31	東京都立大学教授
"	五条お	"	"	聖徳大学助教授
"	大芝芳	"	"	東京都立大学助教授
"	高綱正	"	"	"
"	林武義	"	"	明治大学教授
"	小林憲	"	"	慶應義塾大学助教授
"	小藤保	"	"	早稲田大学教授
"	戸沼美	"	"	"
"	白田真	"	"	"
"	中島平	"	"	東京都立大学教授
"	渡辺勝	"	"	東京女子大学教授
"	篠塚久	"	"	明海大学教授
"	吉岡真	"	"	"
"	小田川恭	"	"	"

発令年月日	氏名	官職等	任期	備考
9. 4. 1	江子	講師 (文教育学部)	10. 3. 31	
"	春代	"	"	
"	嘉合	"	"	川村学園女子大学教授
"	百み	"	"	
"	藤島	"	"	
"	中野	"	"	
"	田保	"	"	慶応義塾大学教授
"	尾浩	"	"	武蔵野音楽大学助教授
"	松野	"	"	武蔵大学教授
"	光藤	"	"	独協大学教授
"	伊藤	"	"	津田塾大学教授
"	千葉	"	"	青山学院大学教授
"	中條	"	"	聖心女子大学教授
"	金子	"	"	武蔵大学助教授
"	山哲	"	"	日本大学教授
"	有賀	"	"	東京都立大学教授
"	金谷	"	"	国学院大学教授
"	伊上	"	"	城西国際大学教授
"	西本	"	"	聖学院大学教授
"	佐々	"	"	慶應義塾大学助教授
"	中川	"	"	東京女子医科大学看護短期大学助教授
"	相田	"	"	
"	新垣	"	"	白百合女子大学教授
"	井上	"	"	
"	岡部	"	"	
"	黒川	"	"	
"	小池	"	"	武蔵野音楽大学助教授
"	薦田	"	"	
"	曾我	"	"	十文字学園女子短期大学教授
"	高田	"	"	
"	八田	"	"	
"	平尾	"	"	
"	山内	"	"	宮城学院女子大学教授
"	渡辺	"	"	桐棚学園大学教授
"	橋本	"	"	
"	孫王	"	"	
"	キース・ハリス	"	"	
"	ライヤ・奥田	"	"	
"	シクリット・酒井	"	"	
"	ジャクリン・ジョーンズ	"	"	
"	本間	(理学部)	10. 3. 31	
"	西沢	"	9. 9. 30	城西大学助教授
"	久保	"	10. 3. 31	
"	鈴木	"	9. 9. 30	
"	嶋下	"	"	
"	竹沢	"	10. 3. 31	日本大学教授
"	市川	(生活科学部)	9. 9. 30	大妻女子大学助教授
"	小谷	"	10. 3. 31	
"	美添	"	"	青山学院大学教授
"	都村	"	9. 9. 30	日本社会事業大学教授
"	岡田	"	10. 3. 31	山脇学園短期大学助教授
"	利光	"	"	玉川大学教授
"	豊田	"	"	
"	野口	"	"	山脇学園短期大学助教授
"	脇田	"	9. 9. 30	埼玉純真女子短期大学講師
"	小林	(ジェンダー研究センター)	10. 3. 31	早稲田大学教授
"	小富	"	"	日本家族計画連盟事務局次長
"	芦野	"	"	
"	根村	講師(研究機関研究員)	"	

発令年月日	氏名	官職等	任期	備考
9. 4. 1	中澤 弥子	講師(研究機関研究員)(生活環境研究センター)	10. 3. 31	
"	川田 健	講師(附属高等学校)	"	
"	柴佳世乃	"	"	
"	尾尚子	"	"	
"	鈴木京子	"	"	
"	長谷川みゆき	"	"	
"	鬼木雅子	"	"	
"	川口美智子	"	"	
"	スティーブン・マイケル・バウ	"	"	
"	リ・ダン・ウシヤン	"	9. 10. 16	
"	嶋口章子	(附属中学校)	10. 3. 31	
"	山越知津子	"	"	
"	飯沼満理子	"	"	
"	石岡英子	"	"	
"	津田ひろみ	"	"	
"	杉浦元一	"	9. 10. 15	
"	スティーブン・マイケル・バウ	"	10. 3. 31	
"	西口敏治	(附属小学校)	"	
"	副島律子	(附属幼稚園)	"	
"	佐藤寛	"	"	
"	山古市康子	学校医(保健管理センター)	"	(財)神経研究所附属清和病院院長
"	古市郁	"	"	虎の門病院医員
"	日暮真久	(附属高等学校)	"	東京家政大学教授
"	高田則久	学校薬剤師	"	

◇ 併任

9. 4. 1	片山洋之介	講師(文教育学部)	10. 3. 31	茨城大学教授
"	藤井恵介	"	9. 9. 30	東京大学助教授
"	関根清三	"	10. 3. 31	東京大学教授
"	秋山聡子	"	9. 9. 30	電気通信大学講師
"	谷川多佳子	"	10. 3. 31	筑波大学助教授
"	近藤成一正	"	9. 9. 30	東京大学助教授
"	鳥海光弘	"	"	東京大学教授
"	鈴木淳道	"	10. 3. 31	国文学研究資料館助教授
"	上野善道	"	"	東京大学教授
"	西野由希久	"	"	茨城大学講師
"	高渡和あき	"	"	東埼玉大学講師
"	桑野あき隆	"	"	東京大学教授
"	遠藤龍二	"	"	図書館情報大学教授
"	小野正敦	"	"	東京外国語大学教授
"	西村靖二	"	"	千葉大学助教授
"	阪口正二	"	"	東京大学助教授
"	天笠重雄	"	9. 9. 30	千葉大学助教授
"	森垣重啓	"	"	電気通信大学助教授
"	中野義彦	"	"	国立教育研究所発達研究室長
"	丹野義彦	"	"	東京大学助教授
"	渡部洋利	"	"	東京大学教授
"	細江文敏	"	"	東京学芸大学教授
"	長谷川敏子	"	10. 3. 31	茨城大学教授
"	加藤美栄	"	"	東京学芸大学助教授
"	楊凱	"	"	東京大学助教授
"	田畑栄泉	"	"	国立健康・栄養研究所運動生理研究室長
"	児美川佳代子	"	9. 9. 30	東京大学助手

発令年月日	氏名	官職等	任期	備考
9. 4. 1	大石雅寿	講師 (理学部)	10. 3. 31	国立天文台助手
"	加藤照之	"	9. 9. 30	東京大学助教授
"	有賀祐美	"	"	東京水産大学教授
"	黒富田幸	"	"	宇宙科学研究所助教授
"	吉田幸光	"	"	国立科学博物館古生物第三研究室長
"	品川嘉久	"	"	電気通信大学助教授
"	大武川信	"	10. 3. 31	東京大学講師
"	古川一之	"	9. 9. 30	筑波技術短期大学助教授
"	棚澤登郎	(生活科学部)	"	千葉大学助手
"	金子代子	"	"	東京農工大学教授
"	岡田守彦	"	"	横浜国立大学助教授
"	河内真紀子	"	"	筑波大学教授
"		"	"	通商産業省工業技術院生命工学工業技術研究所主任研究官
"	諏訪元	"	"	東京大学助教授
"	針原伸	"	"	東京大学助手
"	藤井和	"	"	東京大学助教授
"	西村清	"	"	埼玉大学教授
"	野村忍	"	"	東京大学助教授
"	鈴木和	"	"	国立公衆衛生院主任研究官
"	鮎澤孝	講師 (大学院人間文化研究科)	10. 3. 31	東京外国語大学教授
"	西原鈴	"	"	国立国語研究所日本語教育センター部長
"	小川正	"	"	東京大学教授
"	永井和	"	9. 9. 30	東京工業大学教授
"	溝口優	"	"	国立科学博物館人類第二研究室長
"	林利彦	"	"	東京大学教授
"	上村慎	"	"	東京大学助教授
"	風多洋	"	"	東京大学教授
"	大澤全	"	"	東京農工大学教授
"		(ジェンダー研究センター)	10. 3. 31	東京大学社会科学研究所助教授

◇ 兼 担

9. 4. 1	佐藤保	講師 (文教育学部)	10. 3. 31	学長
"	かおる	"	9. 9. 30	助教授 (ジェンダー研究センター)
"	元章	"	10. 3. 31	" (大学院人間文化研究科)
"	伊藤厚	(理学部)	"	教授
"	富永靖	"	"	"
"	出口哲	"	"	助教授
"	今野美	"	"	"
"	堀佳也	"	"	"
"	藤村浩	"	"	教授
"	河村哲	"	"	"
"	原ひろ	(生活科学部)	9. 9. 30	" (ジェンダー研究センター)
"	十嵐	"	10. 3. 31	" (生活環境研究センター)
"	大橋昌	"	"	"
"	倉田忠	"	"	"
"	富永典	"	"	助教授
"	佐藤保	(大学院人間文化研究科)	"	学長
"	谷部玲	講師 (文教育学部)	9. 9. 30	附属高等学校教諭
"	高橋通	"	"	"
"	菊池美	"	"	"
"	木村真	"	"	附属中学校教諭
"	水岡万	"	"	附属高等学校教諭
"	清津川	"	10. 3. 31	附属高等学校教諭
"	中福正	"	"	附属中学校教諭
"	和田修	"	"	"
"	和	"	9. 9. 30	附属小学校教諭

発令年月日	氏名	官職等	任期	備考
9. 4. 1	黒部善之	講師 (文教育学部)	9. 9. 30	附属小学校教諭
"	若林富男	" "	"	"
"	永川祐三	" "	10. 3. 31	保健管理センター教授
"	古山乙女	" "	9. 9. 30	附属高等学校教諭
"	宮本幸夫	" "	"	附属中学校教諭
"	小室岡和彦	" "	10. 3. 31	"
"	室岡幸子	" (理学部)	9. 9. 30	附属高等学校教諭
"	茶山義光	" "	"	"
"	冲山晶子	" "	"	"
"	秋山美勝	" "	"	附属中学校教諭
"	加々美裕子	" "	"	"
"	田口川祐三	" "	"	"
"	永石田勉	" (生活科学部)	"	保健管理センター教授
"	石田三保子	" "	10. 3. 31	附属中学校教諭
"	田中三保子	" "	9. 9. 30	附属幼稚園教諭

◎非常勤職員

発令年月日	氏名	官職等	任期	備考
◇採用				
9. 3. 1	北川久美子	教務補佐員 (生活科学部)	9. 3. 31	
9. 4. 1	村井麻里子	事務補佐員 (庶務課)	10. 3. 30	
"	伊藤恵子	" (会計課)	"	
"	鈴木恵子	"	"	
"	佐藤由季	"	"	
"	大原みちよ	"	10. 3. 31	
"	上野敦子	事務補佐員 (大学院人間文化研究科)	10. 3. 30	
"	池田智子	" (学務課)	"	
"	工藤幸美	" (学生課)	"	
"	岡本富美	臨時用務員	10. 3. 31	
"	井手尾敏子	事務補佐員	"	
"	宮地美和	" (附属図書館)	10. 3. 30	
"	近田久仁明	"	10. 3. 31	
"	飯塚穂志	"	10. 2. 28	
"	加藤志保子	"	"	
"	渋谷理代	"	"	
"	佐々木和美	"	"	
"	八十島亜矢	"	"	
"	金安保如	"	"	
"	安浜亜希子	"	"	
"	鈴木洋子	" (理学部)	10. 1. 31	
"	菊地久江	臨時用務員 (理学部附属実験)	10. 3. 30	
"	小倉三枝	事務補佐員 (附属高等学校)	10. 3. 31	
"	鈴木敏昭	臨時用務員 (附属中学校)	"	
"	杉村春恵	教務補佐員 (文教育学部)	"	
"	藤井雅代	"	"	
"	長谷川恵子	"	"	
"	杉浦淳子	事務補佐員	"	
"	井内麻矢	教務補佐員	"	
"	猪狩美保子	"	"	
"	辻智子	"	"	
"	上田智子	"	9. 9. 30	
"	中山美由紀	"	10. 3. 31	
"	平田友千絵	"	"	
"	福樋口実穂	"	"	
"	平岡洋子	"	"	
"	中桐典子	"	"	
"	関山和直	" (生活科学部)	"	
"	山由岐中聡	"	9. 9. 30	
"	源城かほ	"	"	
"	谷口和加	"	10. 3. 31	
"	平野順子	"	"	
"	青木もゆ	"	9. 9. 30	
"	前村静華	"	"	
"	伊藤亜紀	"	"	
"	山陸妙子	"	"	
"	是永真優	"	10. 3. 31	
"	穴山朝子	" (大学院人間文化研究科)	"	
"	斎藤優子	" (生活環境研究センター)	"	
"	片江綾子	" (ジェンダー研究センター)	"	
"	造力由美	"	"	
9. 4. 7	石井妙子	事務補佐員 (大学院人間文化研究科)	"	
"	井上喜代	"	"	
9. 4. 10	柿野成美	教務補佐員 (生活科学部)	"	

発令年月日	氏名	官職等	任期	備考
9. 4. 10	犬飼博子	教務補佐員 (生活科学部)	10. 3. 31	
9. 4. 16	濱奥美代	事務補佐員 (文教育学部)	"	
"	浅海智子	" (センター)	"	
9. 4. 25	川原ゆかり	技術補佐員(研究支援員)	"	
◇ 任用更新				
9. 3. 1	杉村春恵	事務補佐員 (附属図書館)	9. 3. 31	
"	謝夢和	"	"	
9. 4. 1	木村洋子	(会計課)	10. 3. 31	
"	江山本里	臨時用務員	"	(館山野外教育施設)
"	"	"	"	(志賀高原体育運動場)
"	坂本久観	事務補佐員 (施設課)	"	
"	平山明枝	" (学務課)	"	
"	川村倫世子	"	"	
"	榎中谷洋悦	" (学生課)	"	
"	山下垣沢順子	臨時用務員	"	
"	永門倉弘寿	事務補佐員	"	
"	"	"	9. 5. 31	
"	門脇朋直	"	"	
"	池田直み	(入学主幹付)	10. 3. 31	
"	渡齋千恵子	(附属図書館)	"	
"	藤本三奈子	"	9. 8. 31	
"	大沢紀子	"	10. 3. 31	
"	小川ミチ子	(文教育学部)	"	
"	青木真紀子	臨時用務員	"	
"	田中ちづ子	事務補佐員 (生活科学部)	"	
"	清水良子	" (大学入試研究科)	9. 9. 15	
"	前宮沢利雄	臨時用務員 (附属中学校)	10. 3. 31	
"	"	"	"	
"	飛高橋千絵	"	"	
"	"	事務補佐員 (附属幼稚園)	"	
"	三森フミ子	臨時用務員	"	
"	"	事務補佐員 (文教育学部)	"	
"	荒尾志朋子	"	"	
"	"	"	"	
"	前屋敷史子	"	"	
"	瀬戸川順和子	教務補佐員	"	
"	長田美智子	"	"	
"	"	"	"	
"	大田代琴恵子	事務補佐員	"	
"	"	"	9. 9. 30	
"	本梅沢直美	"	"	
"	"	教務補佐員	10. 3. 31	
"	井手村朋子	"	"	
"	"	"	"	
"	林田めぐみ	"	"	
"	"	"	"	
"	鈴木智倫子	"	"	
"	朝本由香	"	"	
"	塚久喜香	"	"	
"	"	"	"	
"	木保村直美	"	"	
"	"	"	"	
"	吉本春子	"	"	
"	"	"	"	
"	梅林郁子	"	"	
"	中川維子	"	"	

発令年月日	氏名	官職等	任期	備考
9. 4. 1	陶山知穂	教務補佐員 (文教育学部)	10. 3. 31	
"	小林和江	"	"	
"	小田葉悦	事務補佐員 (理学部)	"	
"	千市川圭子	"	"	
"	森重久美	教務補佐員	"	
"	中村洋子	"	"	
"	馬淵依子	"	"	
"	濱野光代	事務補佐員	"	
"	井上喜代子	"	"	
"	丹羽裕子	教務補佐員	"	
"	嶋山美紀	"	"	
"	霜田くみ子	" (生活科学部)	"	
"	有末伸子	"	"	
"	関口伸子	"	"	
"	高橋恭子	"	"	
"	飯島久美子	"	"	
"	北川久美子	"	"	
"	小林明子	"	"	
"	柳瀬サ工子	"	"	
"	古谷恵子	"	"	
"	木村く由子	"	"	
"	工藤由貴子	"	"	
"	室波千鶴	"	"	
"	難堀野	" (ジェンダー研究センター)	"	
"	荻野正恵	"	"	
◇ 配置換				
9. 4. 1	関麻由美	教務補佐員 (文教育学部)	10. 3. 31	
◇ 退職				
9. 3. 30	松浦弘美	事務補佐員 (会計課)		
"	鈴木恵子	"		
"	佐藤由季	"		
"	池田智子	" (学務課)		
"	工藤幸子	" (学生課)		
"	茂木和恵	" (附属図書館)		
"	鈴木洋子	" (理学部)		
"	菊池久江	臨時用務員 (理学部附属実験所)		
9. 4. 30	古谷恵子	教務補佐員 (生活科学部)		

学 事

○平成9年度お茶の水女子大学大学院人間文化研究科（博士前期課程）発達社会科学専攻社会人学生募集要項

平成9年度お茶の水女子大学大学院人間文化研究科（前期課程）発達社会科学専攻の社会人学生を下記により募集する。

1. 募集の趣旨

本学では、人文科学研究科、理学研究科及び家政学研究科の3研究科を、平成9年4月から既設の大学院人間文化研究科博士課程の前期課程（修士課程）として統合するための改組を計画しました。

この計画が、関係法令の成立及び平成9年度予算の成立によって認められたことにより発達社会科学専攻・発達人間科学系・社会臨床論コースの社会人入学者としての学生をここに募集するものであります。

2. 募集人員

発達社会科学専攻・発達人間科学系・社会臨床論コース 若干名

3. 出願資格

次のいずれかに該当し、平成9年4月までに2年以上の社会経験を経た女子とする。

- (1) 大学を卒業した者
- (2) 学校教育法第68条の2第3項の規定により学士の学位を授与された者
- (3) 文部大臣の指定した者（昭和28年文部省告示第5号）
- (4) 外国において学校教育における16年の課程を修了した者
- (5) 大学を卒業した者と同等以上の学力があると本学大学院が認めた者

4. 出願手続

- | | |
|---------------|---|
| (1) 入 学 願 書 | 用紙は本学で交付 |
| (2) 卒 業 証 明 書 | |
| (3) 志 望 理 由 書 | 用紙は本学で交付 |
| (4) 調 査 書 | 用紙は本学で交付 |
| (5) 研究報告・計画書 | 大学における卒業論文・卒業研究の内容及び将来の研究計画を3,000字以内にまとめたもの（用紙は本学で交付） |
| (6) 健 康 診 断 書 | 用紙は本学で交付 |
| (7) 写 真 | 正面上半身（5cm×4cm）で、出願3か月以内に撮影したもの3枚
願書の指定欄に貼付 |
| (8) 返 信 用 封 筒 | 郵送の場合に限り、定形（長型3号）封筒にあて先を表記し、350円切手を貼付 |

- (9) 受験承諾書 在職中の者は所属長の「受験承諾書」、非常勤の場合は「在職証明書」
- (10) 検定料 28,000 円
- (11) 検定料納付書 用紙は本学で交付

上記書類等を一括し、所定の期日までに本学に提出のこと。ただし、郵送するときは書留速達郵便とし、検定料は郵便為替で、受取人欄に「お茶の水女子大学」と明記し、封筒に「大学院人間文化研究科前期課程入学願書」と朱書すること。

5. 出願期間・願書受付場所

- (1) 出願期間 { 平成9年4月2日(水)～平成9年4月4日(金)
郵送の場合は、締切日までの消印有効
- (2) 受付場所 本学文教育学部事務部
〒112 東京都文京区大塚2丁目1番1号
(地下鉄丸ノ内線茗荷谷駅、有楽町線護国寺駅又は都バス大塚二丁目下車)

6. 選抜方法

入学者の選抜は、筆記試験、口述試験の結果及び志望理由書、調査書、研究報告・計画書、健康診断書等を総合して行う。

- (1) 選考期日 平成9年4月14日(月)
- (2) 筆記試験・口述試験時間割

4月14日(月) 筆記試験・口述試験		
外国語 10:00～11:30	専門試験 13:00～15:00	口述試験 15:30～
英語	臨床心理学 教育臨床学	主に志望理由書、研究報告にもとづいて行う。

- (3) 試験場所 お茶の水女子大学(東京都文京区大塚2丁目1番1号)

7. 入学料及び授業料

入学料 270,000円 授業料(年額) 469,200円 { 前期分 234,600円
後期分 234,600円 }

8. 合格者発表

平成9年4月21日(月)12時頃、人間文化研究科棟の掲示板に掲示する。
合格通知書は、人間文化研究科事務室で受験票を確認のうえ交付する。

9. 注意事項

- (1) 出願書類等の郵送を希望する者は、270円切手を貼った返信用封筒角型2号に宛先を表記したものを同封し、封筒の表に「人間文化研究科出願書類請求」と朱書きして本学「文教育学部事務部」へ請求すること。
- (2) 出願手続後は、書類の変更及び検定料の払い戻しは行わない。
- (3) 合格、不合格に関する問い合わせには一切応じない。

お茶の水女子大学

〒112 東京都文京区大塚2丁目1番1号

電話：東京(03)5978-5162 (文教育学部事務部)
5163

10. 発達社会科学専攻及びコースの概要

<p>◎ 発達社会科学専攻 (発達人間科学系) 社会的かつ個人的存在としての人間とその発達過程を対象に、教育科学、心理学、社会学等をベースとして、学際的にアプローチする。社会的・心理的諸病理の解決を目指した実践的課題意識に基づいて、社会一人間一発達を総合的・有機的に結びつける理論と、経験科学的方法論を探究する。</p>	<p>○ 教育科学 人間の生涯にわたる発達の過程を多様な方法論により科学的に探究するとともに、諸教育問題の解決に資する実践的な研究を行う。基礎科学・方法論として、教育人間学、比較教育文化史、教育社会学を置き、またマクロ・ミクロの実践科学として、教育行財政学、教育方法学、生涯学習論、博物館学を設置する。</p> <p>○ 心理学 心理学コースでは、健常な人間の心理を脳という核を中心に、発達という時間軸、社会という空間軸の中で、多次元的・総合的に検討し理解する。そのために次のような授業科目を設けている。「心理社会行動論」、「心理発達論」、「人格形成論」、「認知システム論」、「発達情報管理論」。これらの授業科目における教育・研究を通して、心理学領域の研究者を育成することが、本コースの目的である。</p> <p>○ 発達臨床学 心理学、児童学の学際的、総合的、実践的研究を行う。発達や障害の心理学、幼児教育に従事する人材の育成を図り、心理臨床の専門家の基礎教育を行う。</p> <p>○ 応用社会学 現代社会の諸問題（家族・地域、コミュニケーションの問題など）を社会的に研究する。人間関係、職業集団、ネットワークを扱う「社会集団論」、逸脱、差別、コミュニケーションを扱う「社会意識論」、福祉政策、社会病理を扱う「社会保障論」などを開講する。</p> <p>● 社会臨床論 心理学、臨床心理学、精神医学等の臨床的研究に加えて、社会環境を重視するマクロの臨床学の立場から教育臨床学の諸問題を研究の対象とする。社会集団、学校集団、家族集団の中でいじめ、不登校、児童虐待、家庭内暴力等の病理的人間関係、社会的逸脱行動等を実践的に研究する。</p>
<p>◎ 発達社会科学専攻 (生活・開発科学系) 「人間・文化と自然環境」と「人間の生活の質」とは、従来の学問の領域区分ではほとんど独立に捉えられてきたが、「開発」および「ジェンダー」という両者を通貫する視点によって、新たな展開を遂げようとしている。すなわち、あらゆるレベルでの相互依存性が強まった現代社会特有の問題——代表的な事例は地球環境問題や、男女共同参画型社会形成など——に的確に対処するには、既存の価値基準・行動規範を乗り越えることが必要である。これらの現実を見定めた教育研究体制の整備と、それによる人材の育成が急務である。これは同時に従来の学問研究の枠組みを再検討することにもなる。</p>	<p>○ 生活政策学 高齢化、価値の多様化、国際環境の激変の中で生じる諸問題を、社会科学系諸分野から検討するために「消費者問題論」、「長寿社会論」を開講する。また、生活者優位の立場に立ち、「生活法社会論」「生活政治論」「生活情報論」などを開講する。</p> <p>○ 地理環境学 人間と環境の関係を多角的にとらえるために、まず、地球科学的基礎のうえに、大気現象の動態と人為変化を理化学的に分析する「自然環境論」を開講し、地形環境とその変化を通じて現代の自然観や社会運動を分析する「環境認識論」を開講する。 いっぽう、社会・文化的活動を中心に置く視座から、地域イメージの形成やその変遷を通して人間と地域のつながりを分析する「環境文化論」を開講し、また、経済活動によって地域がどのように形成されるかを分析する「地域経済論」を開講する。さらに、以上の各分析で必要となる各種データの収集・処理方法を開発するために「地理情報論」を開講する。</p> <p>○ 開発・ジェンダー論 従来の学問研究にジェンダーの視点を導入し、特に社会開発、国際協力などの課題をジェンダーの視点で研究する。日本でも独自のコースとして、内外の社会的要請に応えるものである。</p>

11. 主要授業科目

授 業 科 目	担 当 教 官	主 な 研 究 分 野
心理臨床論	春 日 喬	コミュニケーションの病理
障害臨床学特論	山 本 政 人	発達障害の社会的サポート
教育臨床論	酒 井 朗	日本の学校文化

○平成9年度お茶の水女子大学大学院人間文化研究科（博士課程）人間環境学専攻第2次学生募集要項

1. 募集人員

専攻名	募集人員
人間環境学専攻	若干名

2. 出願資格

下記に該当する女子とする。

- (1) 修士の学位を有する者（平成9年3月に修士の学位を取得見込みの者を含む。）
- (2) 外国において修士の学位に相当する学位を授与された者
- (3) 本研究科において、修士の学位を有する者と同等以上の学力があると認められた者

3. 出願手続

(1) 出願書類等

1	入学願書	本学所定の用紙
2	修士課程修了証明書	
3	修士論文等	
	修士論文	
	2部 ただし、修士論文提出後の研究により、修士論文を補足する研究成果のある場合、あるいは、修士論文以外に別主題について論文がある場合はその論文を審査論文とすることが出来る。 提出論文は、試験終了時に返却する。 ※ 修士論文をもたない場合は、これに代わるものを提出すること。	
	修士論文（主論文）の要旨（修士論文に代わるものの要旨）	
	6部 2,000字以内、横書き、A4版用紙3枚（図表を含む。）におさめること。	
	研究計画書	
	6部（1,000字前後、横書き、A4版用紙2枚におさめること。）	

4	調 査 書	出身大学長又は研究科の長が作成したもの。(本学所定の用紙)
5	推 薦 書	指導教官又はそれに準ずる者が作成したもの。(本学所定の用紙)
6	健康診断書	保健所等公的医療機関で作成したもの。(本学所定の用紙)
7	検 定 料	28,000円 (郵送の場合は、「郵便為替」とし、受取人欄に「お茶の水女子大学」と明記すること。)
8	返信用封筒	郵送の場合は、定形郵便用封筒(長形3号)に宛名を明記し350円切手を貼付すること。

- 注1) 修士論文等は、英語・独語・仏語及び中国語等により作成されたものも可とするが、英語以外の論文については、5000字以上の日本語要約を添付すること。
- 注2) 修士論文に代わるもので、英語・独語・仏語の場合は、A4版ダブルスペース15～30枚とすること。
- 注3) 修士論文等のうち、①論文要旨及び②研究計画書は、①・②の順に1組ずつ左肩をホッチキス止めし、6部をクリップでまとめること。

(2) 出願方法

出願書類を一括し、所定の期日までに本学に提出すること。

なお、郵送する場合は書留速達小包とし、封筒に「人間文化研究科入学願書在中」と朱書すること。

4. 出願期間・選考期日・合格発表・願書受付場所

出願期間 ※	平成9年4月2日(水)～4月4日(金)
言語・口述試験	4月14日(月)
合格発表 ☆	4月21日(月)

※ 受付時間 午前9時～11時30分 午後1時～3時、郵送の場合は、締切日までの消印有効

☆ 正午に人間文化研究科棟1階公示板に合格者氏名を掲示する。

合格通知書は、人間文化研究科事務室で受験票を確認の上、交付する。(合格者の代理人でも差し支えない。)なお、当日、受領できない者については郵送する。

注1) 出願資格(3)に該当する者の出願期間は、次のとおりとする。

平成9年4月2日(水)～4月3日(木)

注2) 口述試験は、本学で指定する時間とする。

願書受付場所： お茶の水女子大学 人間文化研究科棟1階事務室

5. 時間割及び試験場所

	言語・論文試験		口述試験
	9:50~10:50	11:15~12:15	13:30~
人間環境学専攻 人間生態論講座 生活環境論講座 環境基礎論講座	論 文	言 語 (英語)	口述試験 (主論文及び 研究計画)

注) 言語試験において辞書の使用は、認めない。

試験場所： お茶の水女子大学 大学院人間文化研究科棟

6. 入学料及び授業料

入 学 料 270,000円
授 業 料 447,600円 (年額)

7. 入学手続

入学手続関係書類は、平成9年4月下旬に郵送する。

8. 注意事項

- (1) 出願手続き後は、いかなる事情があっても、書類の変更及び検定料の払い戻しの要求には応じない。
- (2) 出願について、不明な点がある場合には、人間文化研究科事務室に問い合わせられたい。
- (3) 合格・不合格に関する郵便・電話等による問い合わせには一切応じない。

平成9年3月

お茶の水女子大学
〒112 東京都文京区大塚2丁目1番1号
TEL (03) 5978-5821~2

平成9年度 お茶の水女子大学大学院人間文化研究科（博士課程）概要

1. 目的

本学の博士課程は、女性研究者が専門諸分野の基盤に立つ高度の学際的総合研究を行うに必要な創造的能力を育成し、もって、学術水準の向上に寄与することを目的とする。

2. 修業年限 3年

3. 専攻及び入学定員

専攻名	人間環境学専攻
入学定員	9

4. 課程の修了

学生は、3年以上在学し、それぞれ専攻で定めた授業科目について所定の単位を修得し、かつ、学位論文審査並びに最終試験に合格しなければならない。

5. 専攻及び博士講座の要旨

専攻名		講座名	要旨
人間環境学専攻	文化の主体をなす人間の生態・行動形式の探究の基礎の上に生活に密着した物質文化の様態を、人間と環境とのかかわり合いという視点より解明を行う。	人間生態論	人間と自然環境との関係を、生物としての人間の面からと、環境の側からとの二つの研究方向からとらえる。それらの相互の関係の対比と関連とを総合化することによって、新しい人間生態学の基礎をつくりあげ、人類の生存のための最適環境を究明する。
		生活環境論	人間と生活環境との関係を、生活それ自身のあり方と生活より派生する諸問題の解決に焦点をおき、生活物質、素材の基本的条件の検討から生活を目的とする環境の最適状態及び諸条件を解明する。
		環境基礎論	人間をとりまく自然環境の構造及びそこに発生する諸現象の精密な研究を行い、それによって自然の本質を究明し環境学の基礎理論の確立に寄与する。

6. 担当教官表

専攻名	講座名	授業科目名	担当指導教官
人間環境学専攻	人間生態論	人間生態論 生理環境論 生命構造論 共生現象論 地域環境論 大気汚染論 二口素子論	教授 富田 守 " 清水 碩 助教授 林 正 男 助教授 馬場 昭 次 助教授 杉谷 隆 一 助教授 根本 心 子 助教授 小川 温 貞 助教授 小石 和 男
	生活環境論	食生活資源論 衣生活素材論 食品加工保存論 生物物質論 環境代謝論 栄養制御論 食生活素材論 衣生活環境論	教授 小 林 彰 夫 " 駒 城 素 子 " 島 田 淳 一 助教授 永 野 肇 恵 教授 大 塚 清 一 " 本 倉 田 忠 男 " 五 十 嵐 脩 郎 " 小 川 昭 二 郎
	環境基礎論	環境分析論 環境変動論 環境制御論 生態環境論 境界構造論 統計現象論 生物圏生成論	助教授 松 浦 秀 治 教授 田 中 辰 明 助教授 田 辺 新 一 教授 芦 原 勲 武 " 松 本 勲 武 " 松 浦 悦 子 " 室 伏 き み 子

※ 担当指導教官は、平成9年度の新専攻設置計画に伴い4月から予定されているものです。

○平成9年度お茶の水女子大学大学院人間文化研究科（博士課程）人間環境学専攻外国人留学生第2次学生募集要項

1. 募集人員

専攻名	募集人員
人間環境学専攻	若干名

2. 出願資格

下記に該当する外国人女子とする。

(1) 修士の学位を有する者（平成9年3月に修士の学位を取得見込みの者を含む。）

(2) 外国において修士の学位に相当する学位を授与された者

(3) 本研究科において、修士の学位を有する者と同等以上の学力があると認めた者

（注）日本において高等学校を卒業したものは、日本人志願者用の募集要項により手続をすること。

3. 出願手続

(1) 出願書類等

1	入学願書	本学所定の用紙
2	修士課程修了証明書	
3	修士論文等	
	修士論文	
	2部 ただし、修士論文提出後の研究により、修士論文を補足する研究成果のある場合、あるいは、修士論文以外に別主題について論文がある場合はその論文を審査論文とすることが出来る。 提出論文は、試験終了時に返却する。 ※ 修士論文をもたない場合は、これに代わるものを提出すること。	
	修士論文（主論文）の要旨（修士論文に代わるものの要旨）	
	6部 2,000字以内、横書き、A4版用紙3枚（図表を含む。）におさめること。	
	研究計画書	
	6部（1,000字前後、横書き、A4版用紙2枚におさめること。）	

4	調 査 書	出身大学長又は研究科の長が作成したもの。(本学所定の用紙)
5	推 薦 書	指導教官又はそれに準ずる者が作成したもの。(本学所定の用紙)
6	健康診断書	保健所等公的医療機関で作成したもの。(本学所定の用紙)
7	検 定 料	28,000円
8	外国人登録済証明書(出願時に、日本国内に在住している者) 戸籍謄本又は出生証明書等(出願時に、日本国外に在住している者)	
9	保 証 人 届	我が国に居住する保証人の保証書(本学所定の用紙)。ただし、外国人が保証人になる場合は、外国人登録済証明書添付すること。
10	そ の 他	日本語の能力を証明するもの(例えば、日本語能力試験成績通知の写等)があれば提出すること。
11	返信用封筒	受験票返送用封筒(長形3号)に宛名を明記し、350円切手を貼付すること。

注1) 修士論文等は、英語・独語・仏語及び中国語等により作成されたものも可とするが、英語以外の論文については、5000字以上の日本語要約を添付すること。

注2) 修士論文に代わるもので、英語・独語・仏語の場合は、A4版ダブルスペース15～30枚とすること。

注3) 修士論文等のうち、①論文要旨及び②研究計画書は、①・②の順に1組ずつ左肩をホッチキス止めし、6部をクリップでまとめること。

(2) 出願方法

出願書類を一括し、所定の期日までに本学に持参の上、提出すること(代理人可)。

4. 出願期間・選考期日・合格発表・願書受付場所

出願期間 ※	平成9年4月2日(水)～4月4日(金)
言語・口述試験	4月14日(月)
合格発表 ☆	4月21日(月)

※ 受付時間 午前9時～11時30分 午後1時～3時

☆ 正午に人間文化研究科棟1階公示板に合格者氏名を掲示する。

合格通知書は、人間文化研究科事務室で受験票を確認の上、交付する。(合格者の代理人でも差し支えない。)なお、当日、受領できない者については郵送する。

注1) 出願資格(3)に該当する者の出願期間は、次のとおりとする。

平成9年4月2日(水) ～ 4月3日(木)

注2) 口述試験は、本学で指定する時間とする。

願書受付場所: お茶の水女子大学 学生部学務課留学生係

5. 時間割及び試験場所

	言語・論文試験		口述試験
	9:50~10:50	11:15~12:15	13:30~
人間環境学専攻 人間生態論講座 生活環境論講座 環境基礎論講座	論文	言語(英語)	口述試験 (主論文及び 研究計画)

注) 言語試験において辞書の使用は、認めない。

試験場所: お茶の水女子大学 大学院人間文化研究科棟

6. 入学料及び授業料

入学料 270,000円
授業料 447,600円(年額)

7. 入学手続

入学手続関係書類は、平成9年4月下旬に郵送する。

8. 注意事項

- (1) 出願手続後は、いかなる事情があっても、書類の変更及び検定料の払い戻しの要求には応じない。
- (2) 出願について、不明な点がある場合には、学生部学務課教務係に問い合わせられたい。
- (3) 合格・不合格に関する郵便・電話等による問い合わせには一切応じない。

平成9年3月

お茶の水女子大学
〒112 東京都文京区大塚2丁目1番1号
TEL (03) 5978-5821~2

○平成9年度お茶の水女子大学大学院人間文化研究科（博士
後期課程）複合領域科学専攻学生募集要項

1. 専攻別募集人員

専攻名	募集人員
複合領域科学専攻	13名

2. 出願資格

下記に該当する女子とする。

- (1) 修士の学位を有する者（平成9年3月に修士の学位を取得見込みの者を含む。）
- (2) 外国において修士の学位に相当する学位を授与された者
- (3) 本研究科において、修士の学位を有する者と同等以上の学力があると認められた者

3. 出願手続

(1) 出願書類等

1	入学願書	本学所定の用紙
2	修士課程修了証明書	
3	修士論文等	
	修士論文	
	2部 ただし、修士論文提出後の研究により、修士論文を補足する研究成果のある場合、あるいは、修士論文以外に別主題について論文がある場合はその論文を審査論文とすることが出来る。 提出論文は、試験終了時に返却する。 ※ 修士論文をもたない場合は、これに代わるものを提出すること。	
	修士論文（主論文）の要旨（修士論文に代わるものの要旨）	
	6部 2,000字以内、横書き、A4版用紙3枚（図表を含む。）におさめること。	
	研究計画書	
	6部（1,000字前後、横書き、A4版用紙2枚におさめること。）	

4	調 査 書	出身大学長又は研究科の長が作成したもの。(本学所定の用紙)
5	推 薦 書	指導教官又はそれに準ずる者が作成したもの。(本学所定の用紙)
6	健康診断書	保健所等公的医療機関で作成したもの。(本学所定の用紙)
7	検 定 料	28,000円 [平成9年3月に本学人文科学研究科、理学研究科、家政学研究科修了者は不要] (郵送の場合は、「郵便為替」とし、受取人欄に「お茶の水女子大学」と明記すること。)
8	返信用封筒	郵送の場合は、定形郵便用封筒(長形3号)に宛名を明記し350円切手を貼付すること。

- 注1) 修士論文等は、英語・独語・仏語及び中国語等により作成されたものも可とするが、英語以外の論文については、5000字以上の日本語要約を添付すること。
- 注2) 修士論文に代わるもので、英語・独語・仏語の場合は、A4版ダブルスペース15～30枚とすること。
- 注3) 修士論文等のうち、①論文要旨及び②研究計画書は、①・②の順に1組ずつ左肩をホッチキス止めし、6部をクリップでまとめること。

(2) 出願方法

出願書類を一括し、所定の期日までに本学に提出すること。

なお、郵送する場合は書留速達小包とし、封筒に「人間文化研究科入学願書在中」と朱書すること。

4. 出願期間・選考期日・合格発表・願書受付場所

出願期間 ※	平成9年4月2日(水)～4月4日(金)
言語・口述試験	4月14日(月)
合格発表 ☆	4月21日(月)

※ 受付時間 午前9時～11時30分 午後1時～3時、郵送の場合は、締切日までの消印有効

☆ 正午に人間文化研究科棟1階公示板に合格者氏名を掲示する。

合格通知書は、人間文化研究科事務室で受験票を確認の上、交付する。(合格者の代理人でも差し支えない。)なお、当日、受領できない者については郵送する。

注1) 出願資格(3)に該当する者の出願期間は、次のとおりとする。

平成9年4月2日(水) ～ 4月3日(木)

注2) 口述試験は、本学で指定する時間とする。

願書受付場所： お茶の水女子大学 人間文化研究科棟1階事務室

5. 時間割及び試験場所

	言語・口述試験	
	10:00~11:20	13:00~
複合領域科学専攻 社会情報科学講座 数理自然情報科学講座 物質科学講座 複雑系科学講座	言語(英語)	口述試験 (主論文及び 研究計画)

注) 言語試験において辞書の使用は、認めない。

試験場所： お茶の水女子大学 大学院人間文化研究科棟

6. 入学料及び授業料

入学料 270,000円〔平成9年3月に本学人文科学研究科、理学研究科、
家政学研究科修了者は不要〕
授業料 447,600円(年額)

7. 入学手続

入学手続関係書類は、平成9年4月下旬に郵送する。

8. 注意事項

- (1) 出願手続き後は、いかなる事情があっても、書類の変更及び検定料の払い戻しの要求には応じない。
- (2) 出願について、不明な点がある場合には、人間文化研究科事務室に問い合わせられたい。
- (3) 合格・不合格に関する郵便・電話等による問い合わせには一切応じない。

平成9年3月

お茶の水女子大学
〒112 東京都文京区大塚2丁目1番1号
TEL (03) 5978-5821~2

平成9年度 お茶の水女子大学大学院人間文化研究科（博士後期課程）概要

1. 目的

本学の博士後期課程は、女性研究者が高度の専門研究及び専門諸分野の基盤に立つ高度の学際的総合研究を行うに必要な創造的能力を育成し、研究者として自立して研究活動を行い、又はその他の高度に専門的な業務に従事するに必要な研究能力及びその基礎となる豊かな学識を養うことを目的とする。

2. 標準修業年限 3年

3. 専攻及び入学定員

専攻名	複合領域科学専攻
入学定員	13

4. 課程の修了

学生は、3年以上在学し、それぞれ専攻で定めた授業科目について所定の単位を修得し、かつ、学位論文審査並びに最終試験に合格しなければならない。

5. 専攻及び博士講座の要旨

専攻名	講座名	要旨
複合領域科学専攻	社会情報科学	社会現象を情報科学の方法によって解析するとともに、情報の社会に及ぼす影響を動的に研究する。また、情報の伝播に伴う人間の存在様式の変動を基礎科学の方法論を踏まえつつ、人文・社会科学の視点をを用いてグローバルに解明する。
	数理自然情報科学	自然と情報とを双方向に研究する。すなわち、純粋数学それ自身の研究及び基礎科学共通の言語としての数学の研究を行うとともに、科学の諸分野への数理的方法論の適用、また応用分野の研究を行う。また情報理論的立場から自然現象に関する情報の解析と処理を行うとともに、自然との関連における情報科学の研究を行う。
	物質科学	現代物理学及び化学の方法を用いて、物質の構成要素である素粒子、原子核、原子、分子の性質を研究するとともに、それらの集合体である物質に固有の性質や多様な振る舞いを、マイクロ及びマクロな視点から解明する。
	複雑系科学	要素還元主義の視点からは捉えることの困難な複雑系の諸現象を、自然科学、ことに数理的視点を基礎にした統合的方法論によって研究する。自然界にみられる秩序相の生成、社会組織の生成と崩壊、生命現象のヒエラルキーの内部に見出される自己最適化と応答可塑性、意識の本質と創造性の問題等を、複雑系が内包する相互作用による自己組織化という視点を核に、学際融合的に研究する。

6. 担当教官

専攻名	講座名	授業科目名	担当指導教官
複 合 領 域 科 学 専 攻	社会情報科学	社会情報論 環境情報論 地理情報論 言語情報論	助教授 坂元 章 教授 河村 哲 " 田宮 兵 助教授 古田 啓
	数理自然情報科学	数理多様体構造論 数理解析論 力学系理論 非可換解析論 情報構造解析論 数値情報処理論 画像情報論 非線形現象解析	教授 塚田 和美 " 真島 秀 助教授 松崎 克 " 吉田 裕 教授 浩一 " 佐藤 史 助教授 藤代 成 " 出口 哲 生
	物質科学	統計物理学 凝縮系科学 高エネルギー物理学 宇宙天体物理学 極端条件科学 メソスコピック科学 理論分子科学 分子集合体科学 計算科学 機能性分子化学 分子反応設計	教授 柴田 明 " 富永 徳 " 菅本 晶 助教授 森川 雅 教授 浜谷 望 助教授 小谷 佳 教授 小平 恒 助教授 堀野 夫 " 野佳也 " 野 景 教授 鷹 子 助教授 福 豊 山 眞 二
	複雑系科学	複雑系の秩序形成 非線形ダイナミクス 非平衡複雑系 構造分子科学 ミクロ複雑系 生体複雑機能学 動的溶液科学	教授 伊藤 子 " 太藤 厚 " 藤田 隆 助教授 今野 修 教授 長嶋 美 助教授 最上 智 教授 益 祐 田 善 上 祐 田 祐 一

○平成9年度お茶の水女子大学大学院人間文化研究科（博士
後期課程）複合領域科学専攻外国人留学生学生募集要項

1. 専攻別募集人員

専攻名	募集人員
複合領域科学専攻	若干名

2. 出願資格

下記に該当する外国人女子とする。

- (1) 修士の学位を有する者（平成9年3月に修士の学位を取得見込みの者を含む。）
- (2) 外国において修士の学位に相当する学位を授与された者
- (3) 本研究科において、修士の学位を有する者と同等以上の学力があると認めた者
（注）日本において高等学校を卒業したものは、日本人志願者用の募集要項により手続
すること。

3. 出願手続

(1) 出願書類等

1	入学願書	本学所定の用紙
2	修士課程修了証明書	
3	修士論文等	
	修士論文	
	2部 ただし、修士論文提出後の研究により、修士論文を補足する研究成果のある場合、 あるいは、修士論文以外に別主題について論文がある場合はその論文を審査論文とす ることが出来る。 提出論文は、試験終了時に返却する。 ※ 修士論文をもたない場合は、これに代わるものを提出すること。	
	修士論文（主論文）の要旨（修士論文に代わるものの要旨）	
	6部 2,000字以内、横書き、A4版用紙3枚（図表を含む。）におさめること。	
	研究計画書	
	6部（1,000字前後、横書き、A4版用紙2枚におさめること。）	

4	調 査 書	出身大学長又は研究科の長が作成したもの。(本学所定の用紙)
5	推 薦 書	指導教官又はそれに準ずる者が作成したもの。(本学所定の用紙)
6	健康診断書	保健所等公的医療機関で作成したもの。(本学所定の用紙)
7	検 定 料	28,000円 [平成9年3月に本学人文科学研究科、理学研究科、家政学研究科修了者は不要]
8	外国人登録済証明書(出願時に、日本国内に在住している者) 戸籍謄本又は出生証明書等(出願時に、日本国外に在住している者)	
9	保 証 人 届	我が国に居住する保証人の保証書(本学所定の用紙)。ただし、外国人が保証人になる場合は、外国人登録済証明書添付すること。
10	そ の 他	日本語の能力を証明するもの(例えば、日本語能力試験成績通知の写等)があれば提出すること。
11	返信用封筒	受験票返送用封筒(長形3号)に宛名を明記し、350円切手を貼付すること。

注1) 修士論文等は、英語・独語・仏語及び中国語等により作成されたものも可とするが、英語以外の論文については、5000字以上の日本語要約を添付すること。

注2) 修士論文に代わるもので、英語・独語・仏語の場合は、A4版ダブルスペース15～30枚とすること。

注3) 修士論文等のうち、①論文要旨及び②研究計画書は、①・②の順に1組ずつ左肩をホッチキス止めし、6部をクリップでまとめること。

(2) 出願方法

出願書類を一括し、所定の期日までに本学に持参の上、提出すること(代理人可)。

4. 出願期間・選考期日・合格発表・願書受付場所

出願期間 ※	平成9年4月2日(水)～4月4日(金)
言語・口述試験	4月14日(月)
合格発表 ☆	4月21日(月)

※ 受付時間 午前9時～11時30分 午後1時～3時

☆ 正午に人間文化研究科棟1階公示板に合格者氏名を掲示する。

合格通知書は、人間文化研究科事務室で受験票を確認の上、交付する。(合格者の代理人でも差し支えない。)なお、当日、受領できない者については郵送する。

注1) 出願資格(3)に該当する者の出願期間は、次のとおりとする。

平成9年4月2日(水)～4月3日(木)

注2) 口述試験は、本学で指定する時間とする。

願書受付場所: お茶の水女子大学 学生部学務課留学生係

5. 時間割及び試験場所

	言語・口述試験	
	10:00~11:20	13:00~
複合領域科学専攻 社会情報科学講座 数理自然情報科学講座 物質科学講座 複雑系科学講座	言語(英語)	口述試験 (主論文及び 研究計画)

注) 言語試験において辞書の使用は、認めない。

試験場所： お茶の水女子大学 大学院人間文化研究科棟

6. 入学料及び授業料

入学料 270,000円〔平成9年3月に本学人文科学研究科、理学研究科、
家政学研究科修了者は不要〕
授業料 447,600円(年額)

7. 入学手続

入学手続関係書類は、平成9年4月下旬に郵送する。

8. 注意事項

- (1) 出願手続き後は、いかなる事情があっても、書類の変更及び検定料の払い戻しの要求には応じない。
- (2) 出願について、不明な点がある場合には、学務課留学生係に問い合わせられたい。
- (3) 合格・不合格に関する郵便・電話等による問い合わせには一切応じない。

平成9年3月

お茶の水女子大学
〒112 東京都文京区大塚2丁目1番1号
TEL (03) 5978-5821~2

○平成10年度お茶の水女子大学理学部第3年次編入学（社会人特別選抜を含む）学生募集要項

お茶の水女子大学理学部では、平成8年度から第3年次編入学試験を実施しています。

本学部では、社会における女性の地位向上と相まって要請されている、高度な学識と広い視野を持つ女子学生の育成を目指してきました。高等教育の多様化の一環として、既に社会人として活躍しておられる方々のリカレント教育や、短期大学・高等専門学校を卒業して更に深い専門知識を求めようとする方に、より高度な理学部専門教育の機会を提供することが、この制度の趣旨であります。

これが、自然科学の修学を目指す女性の方々の更なる高みへの飛翔の出発点となることを期待いたします。

I 一般選抜

1. 募集人員

学 科	募集人員
数 学 科	若 干 名
物 理 学 科	若 干 名
化 学 科	若 干 名
生 物 学 科	若 干 名
情報科学科	若 干 名

2. 出願資格

次のいずれかに該当する女子とする。

学 科	出 願 資 格
数 学 科 物 理 学 科 化 学 科 生 物 学 科	(1)大学を卒業した者及び平成10年3月卒業見込みの者 (2)短期大学を卒業した者及び平成10年3月卒業見込みの者 (3)高等専門学校を卒業した者及び平成10年3月卒業見込みの者 (4)外国において、学校教育における14年以上の課程を修了した者及び 修了見込みの者 (5)平成10年3月までに大学に2年以上在学し、62単位以上修得見込の者
情報科学科	(1)大学を卒業した者及び平成10年3月卒業見込みの者 (2)短期大学を卒業した者及び平成10年3月卒業見込みの者 (3)高等専門学校を卒業した者及び平成10年3月卒業見込みの者 (4)外国において、学校教育における14年以上の課程を修了した者及び 修了見込みの者

3. 出願期間

平成9年6月2日（月）から平成9年6月6日（金）まで。（6月6日消印有効）

4. 出願手続

(1) 提出書類等

編入学願書	本学所定の用紙
志望理由書	本学所定の用紙
卒業（見込）証明書又は在学証明書	
成績証明書（履修中の科目も記載すること。）	
健康診断書	本学所定の用紙
検 定 料	30,000 円（改定予定額）（郵便為替）
返信用封筒	あて先を明記して, 350円切手を貼った定型郵便物用封筒を同封すること。

(2) 出願方法

出願書類を一括して、必ず書留で理学部事務部あてに郵送すること。

なお、『理学部第3年次編入学願書』と朱書すること。

お茶の水女子大学理学部事務部

〒 112 東京都文京区大塚2丁目1番1号

☎ 03 (5978) 5287~8

5. 選抜方法

入学者の選抜は、学力検査（筆記試験・口述試験）及び成績証明書等を総合して判定する。

学科名	7月 2日（水）	
	試験科目	時 間
数 学 科	数 学*	10:00~12:00
	英 語	13:00~14:00
	口述試験	15:00~
物 理 学 科	数 学	9:00~10:30
	物 理 学	10:40~12:10
	口述試験	13:30~
化 学 科	化 学	10:00~12:00
	英 語	13:00~14:00
	口述試験	15:00~
生 物 学 科	生 物 学	10:00~12:00
	英 語	13:00~14:00
	口述試験	15:00~
情 報 科 学 科	数 学	9:00~10:30
	情 報**	10:40~12:10
	英 語	13:00~14:00
	口述試験	15:00~

* 微分・積分, 行列と行列式

** 情報処理2種程度

II 社会人特別選抜

1. 募集人員

学 科	募集人員
数 学 科	} 若干名
物 理 学 科	
化 学 科	
生 物 学 科	
情 報 科 学 科	

2. 出願資格

入学時に社会人としての経験を1年以上有し、次のいずれかに該当する女子とする。

学 科	出 願 資 格
数 学 科 物 理 学 科 化 学 科 生 物 学 科 情 報 科 学 科	(1)大学を卒業した者 (2)短期大学を卒業した者 (3)高等専門学校を卒業した者 (4)外国において、学校教育における14年以上の課程を修了した者

なお、入学時において現職のまま入学しようとする者は、入学手続の際に企業等の所属長の入学承諾書（様式随意）を提出すること。

3. 出願期間

平成9年6月2日（月）から平成9年6月6日（金）まで。（6月6日消印有効）

4. 出願手続

(1) 提出書類等

編入学願書	本学所定の用紙
志望理由書	本学所定の用紙
卒業証明書	
成績証明書	
健康診断書	本学所定の用紙
検 定 料	30,000 円（改定予定額）（郵便為替）
返信用封筒	あて先を明記して、350円切手を貼った定型郵便物封筒を同封すること。

(2) 出願方法

出願書類を一括して、必ず書留で理学部事務部あてに郵送すること。

なお、『理学部第3年次(社会人特別選抜)編入学願書』と朱書すること。

お茶の水女子大学理学部事務部

〒112 東京都文京区大塚2丁目1番1号

☎ 03(5978)5287~8

5. 選抜方法

入学者の選抜は、学力検査(筆記試験・口述試験)及び成績証明書等を総合して判定する。

なお、詳細については、理学部事務部へ問い合わせること。

学科名	7月 2日(水)	
	試験科目	時 間
数 学 科	数 学*	10:00~12:00
	英 語	13:00~14:00
	口述試験	15:00~
物 理 学 科	数 学	9:00~10:30
	物 理 学	10:40~12:10
	口述試験	13:30~
化 学 科	化 学	10:00~12:00
	英 語	13:00~14:00
	口述試験	15:00~
生 物 学 科	生 物 学	10:00~12:00
	英 語	13:00~14:00
	口述試験	15:00~
情 報 科 学 科	数 学	9:00~10:30
	情 報**	10:40~12:10
	英 語	13:00~14:00
	口述試験	15:00~

* 微分・積分, 行列と行列式

** 情報処理2種程度

Ⅲ 合格発表等

1. 合格者の発表

- (1) 7月10日(木)正午の予定。理学部1号館内掲示板に掲示する。
合格者には、合格通知書を郵送する。
- (2) 入学手続関係書類は、平成10年3月中旬に送付する。

2. 入学料及び授業料

- (1) 入 学 料 275,000 円 (改定予定額)
- (2) 授業料年額 447,600 円

3. 修学条件

入学の時期は平成10年4月とし、編入学後2年以上4年以内に本学理学部履修規程に定める授業科目を履修し、卒業に必要な単位を修得した者については、学士(理学)の学位を授与する。

4. そ の 他

- (1) 出願後、書類の変更及び検定料の払戻は行わない。
- (2) 出願書類等の請求は、あて先を明記し、190円切手を貼った角型2号封筒(23.9cm×33.1cm)を同封すること。
- (3) 受験に関する問い合わせは、往復はがきによるか、返信用封筒(切手貼付)を同封し、必ず返信先を明記すること。

10. 大学所在地案内

都営バス	大塚2丁目停留所前
地下鉄	丸の内線 茗荷谷駅 徒歩約5分
”	有楽町線 護国寺駅(音羽口) 徒歩約5分

お茶の水女子大学理学部履修概要

1. 履修方法及び課程の修了

- (1) 卒業するためには、本学理学部履修規程に定めるところにより、124単位以上を修得しなければならない。
- (2) 本学部に編入学前に在学した大学等において修得した単位については、本学部の定める基準に従って卒業要件単位として認定する。
- (3) 卒業に必要な単位を修得した者については、学士（理学）の学位を授与する。

2. 各学科の授業科目

学 科	専 攻 科 目 (必 修)
数 学 科	初等代数学, 線形代数, 同演習, 微分積分学, 同演習, 微分積分学統論, 同演習, 線形代数統論, 幾何学序論, 同演習, 位相空間論, 同演習, 離散数学, 同演習, 関数論, 同演習, 現代数学講話, 数学講究
物 理 学 科	古典力学, 解析力学, 力学系理論, 電磁気学 I・II, 物理数学 I・II, 数理物理学, 量子力学 I・II, 多体系量子力学, 熱・統計力学, 量子統計力学, 固体電子論, 相転移物理学, 凝縮系物理学, 原子核物理学, 素粒子物理学, 基礎物理学実験, 物理学実験, 特別研究
化 学 科	基礎物理化学, 定量分析化学・化学平衡論, 構造有機化学, 基礎無機化学, 構造生化学, 構造物理化学, 物性物理化学, 機器測定法, 反応有機化学, 構造無機化学, 生体分子反応学, 分子分光学, 基本化学実験, 無機化学実験, 分析化学実験, 有機化学実験, 物理化学実験, 生物化学実験, 化学演習, 特別研究
生 物 学 科	生化学, 生物物理学, 動物系統学, 植物形態学, 植物生理学, 基礎遺伝学, 分子遺伝学, 分子細胞生物学, 代謝生物学, 細胞生物学, 動物生理学, 発生生物学, 生物学実習 I・II, 生物学演習, 特別研究
情 報 科 学 科	線形代数, 微分積分学, 数理基礎論, 計算機システム序論, データ構造とアルゴリズム, 確率序論, 関数論, 離散数学, プログラム作成実習, 自然情報基礎論, 数値計算, 情報理論, 計算基礎論, オペレーティングシステム, 言語理論とオートマトン, 特別研究

※ 上記授業科目以外に、専攻科目（選択）、関連科目が多数開講されている。

○学位授与

(課程修了によるもの)

授与番号	博士の専攻分野の名称	授与年月日	氏名	本籍	博士論文名
甲第 65号	博士(人文科学)	平成9年3月24日	尹 福 姫	大韓民国	志賀文学の構図
甲第 66号	博士(理学)	平成9年3月24日	水 野 光 子	静岡県	量子力学のconsistent解釈
甲第 67号	博士(人文科学)	平成9年3月24日	崔 明 姫	大韓民国	夏日漱石研究序説
甲第 68号	博士(学術)	平成9年3月24日	三 上 賀 代	東京都	土方巽研究-暗黒舞踏技法試論-
甲第 69号	博士(学術)	平成9年3月24日	三 宅 紀 子	東京都	アスコルビン酸の自動酸化機構
甲第 70号	博士(学術)	平成9年3月24日	山 主 智 子	山梨県	Study on carotenoid function-focusing on mobilization and chemoprevention of pulmonary tumorigenesis induced by diesel exhaust particles- (カロテノイドの作用に関する研究-より誘導された肺がんの予防に焦点動態とTi- μ 微粒子にをあてて-)
甲第 71号	博士(理学)	平成9年3月24日	川 村 昌 子	青森県	Swimming of Micro-organisms from Field Theoretical Viewpoint (場の理論的立場からの微生物の遊泳)
甲第 72号	博士(理学)	平成9年3月24日	深 谷 敦 子	栃木県	ランダム磁性体のスピンドイナミクスと磁場中の振舞い -絶縁体混晶 $Mn_xMg_{1-x}TiO_3$ および $Fe_xMn_{1-x}TiO_3$ -
甲第 73号	博士(理学)	平成9年3月24日	東 方 綾	愛知県	希釈反強磁性体 $Mn_xMg_{1-x}TiO_3$ の磁気的性質の研究
甲第 74号	博士(理学)	平成9年3月24日	張 微	中華人民共和国	3価、4価セリウム塩を触媒とするペローゾフ-ザボチンスキー反応およびミニマル振動子の流れ系による熱・電位差同時測定と化学振動挙動の解析
甲第 75号	博士(理学)	平成9年3月24日	米 田 敦 子	富山県	Vitronectin as a multifunctional glycoprotein-The complete structures and new ligands - (多機能糖タンパク質ビトロネクチン-その全構造と新規リガンド-)
甲第 76号	博士(理学)	平成9年3月24日	Farid Farid	イラン	Syntheses, Structure and Chromotropic Properties of Copper(II)Mixed-Ligand Complexes, Containing an N-alkylated Ethylenediamine and a New Triketonate Ligand (N-アルキルエチレンジアミンと新しいタイプのトリケトン配位子を含む銅(II)混合配位子錯体の合成、構造およびそれらのクロモトピック特性)
甲第 77号	博士(理学)	平成9年3月24日	和 田 祐 子	東京都	Control of ciliary beating by neurotransmitters in searchin larvae (ウニ幼生繊毛打の神経伝達物質による調節)
甲第 78号	博士(理学)	平成9年3月24日	澤 田 留 美	愛知県	n-6系、n-3系多価不飽和脂肪酸代謝に及ぼすセサミンの生理作用に関する研究

(論文提出によるもの)

授与番号	博士の専攻分野の名称	授与年月日	氏名	本籍	博士論文名
乙第 64号	博士(人文科学)	平成9年3月25日	村越 喜代美	東京都	北宋末の詞と雅楽 -周邦彦と大晟府-
乙第 65号	博士(人文科学)	平成9年3月25日	竹内 栄美子	神奈川県	中野重治研究 -昭和十年代の方法と軌跡-
乙第 66号	博士(人文科学)	平成9年3月25日	金 玉 姫	大韓民国	上田秋成研究 -『春雨物語』を中心に-
乙第 67号	博士(社会科学)	平成9年3月25日	松田 千枝子	栃木県	教育的「自治」概念の成立と展開 -農村社会における教育・文化運動を中心 に-
乙第 68号	博士(人文科学)	平成9年3月25日	上杉 妙子	広島県	祖先祭祀の複合的構造とその変動 -長野県佐久地方の事例からの微視的研究-
乙第 69号	博士(理 学)	平成9年3月25日	トリト 美代子	鹿児島県	糖特異的自己会合性エンジュ樹皮 レクチン

○卒業式及び学位記授与式

第45回卒業式及び第33回学位記（修士）授与式、第14回学位記（博士）授与式が3月24日（月）大学講堂で挙行された。

卒業生数及び修了者数

・卒業生数	(537名)
文教育学部	245名
理 学 部	142名
生活科学部	146名
家 政 学 部	4名
・修了者数	(212名)
修士課程 人文科学研究科	74名
理 学 研 究 科	77名
家 政 学 研 究 科	47名
博士課程 人間文化研究科	14名

○入 学 式

平成9年度入学式が4月9日（水）大学講堂で挙行された。

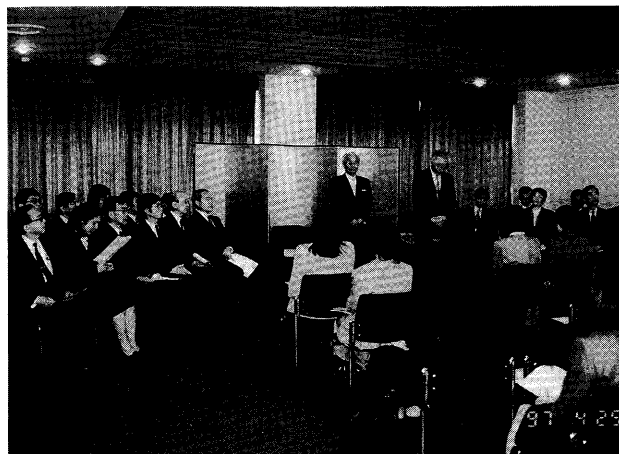
入 学 者 数

・学 部	(547名)		(37名)
文教育学部	242名	第3年次編入学	13名
理 学 部	143名	"	12名
生活科学部	162名	"	12名
・大学院人間文化研究科	(293名)		
博士前期課程	224名		
博士後期課程	68名		
博士後期課程（再入学）	1名		

また、大学院人間文化研究科における4月の学生募集に係る入学式が4月25日（金）人間文化研究科会議室で挙行された。

入 学 者 数

・大学院人間文化研究科	(29名)
博士前期課程	1名
博士後期課程	28名



卒業生氏名

文教育学部 (245名)

荒伊大佐中廣	川藤友木條元	明里理笑康順	子惠子子代子	石稻加佐橋澍	塚井藤世村上	江子子子子香	春照麻裕佳由	哲衣	石井小末花	山上山平田	真尚陽佳博	知子子世子	和井齊土平	泉上藤谷井	弓夏由佐	愛子江子知
有大新寺森山	馬塚谷崎崎崎	香亜由裕恵麻	織希子子美子	石小鈴橋谷	井原本木田	子紀ら子美	久美く紀	史	伊貝建藤吉	東瀬守目崎	こ万里佳理	み子美理香	犬片玉村野	飼岡谷上口	な比直	み子子知子
浅浦小倉縫三	野上川光部原	和千三浩直	順子春子子子	石浦笠大萩佐	川場原寺原藤	子緒美保子子	貴三真美容純	地	伊浮大鎌瀧服	須谷田澤部	真桃亜香洋	美子彩子子	内大鳥茅松	山橋田根本	純聡千真史	子子洋帆子
赤飯伊角坂角中平宮芳	池島藤田野間崎野	尚あ美舞紀有敬勝珠	美み紀子子子惠子子美	阿飯小北佐高長藤柳渡	形塚野島木木田峰町邊	美子代理子惠代子乃理	真菜恭麻智淳真裕貴英	国	天石加木静高永本山足	久川屋村谷柳廣多崎立	雅し朋恭麻東陽真由朋	子ぶ子子美花子紀里子	有石加古水多日前吉	馬川藤賀津田山田澤	響美志智亜幸孝奈道	子帆保子子代子江子
荒河竹吉	井上内田	順和圭奈美	子美代子	井倉竹胡	上光下	桐由陽小	外	文	宇都宮池川田	科	(中佳美直有)	文和和美子	中河鈴森	国井木田	陽英裕	子水美
青上大坂杉竹永檜美江	木野前口山内末垣濃見	か志恵美み真理里裕昌	り佳子樹き弓奈美子恵	東上神坂鈴田野福吉山	村谷本木中本本岡口	美晶保子生恵子子子子	外	文	倉内野尾川内田田邊	科	(英奈加伸由ふ紀葉順文)	美子子希子子子子繪	英語石大齋杉高中林丸渡	学川坪藤浦良田山邊	才美理千夏好百右裕	子穂子恵子美合子子
足木之	立下	由伸	紀子	和佐	泉野	幸文	外国語	文	奥山	科	(仏育暁)	学代繪	仏語北湯	学御門淺	亜美	季岐

新浦加謙羽松小	井本藤訪鳥川玉	弥珠友恭由祐佳	惠代紀代香子枝	池垣久出早茂平	生田保口川木川	京有 陽智寛和	教 育 子紀純子子美代	学 石河小中藤嘉	科 原西林原井永	(教 育 学) 子希佐江乃子	智 惠若絵里	毛藤木村田田	稲加佐中増米	子幸美生子佳
有尾清土濱望	澤崎水田中月	さ 由美雅明	り 恵紀子子恵	岩河下手廣遠	瀬邊井塚渡藤	教 育 子章子美子子	学 岡小田内藤	科 田林中藤原	(心 理 学) 子緒子み里	有美麻ま優	寿佳美有め	川井 本成	小酒辻橋松	江永子子み
荒岡多三	井本胡好	湖久綾友	亜美花恵	磯鍵塚山	部山原下	舞 踊 桂美子美	学 伊近中依	科 藤藤尾田	(舞 踊 教 育 学) 子子子綾	真弓葉	典利奈智	畑水本川	井泉松小	子枝緒子
池角鶴原	田谷見	恵真有志	子美衣絵	北高寺廣	原田嵩瀬	舞 踊 恵穂織子	学 久高遠藤	科 島梨山岡	(音 楽 教 育 学) 子子子記	文木宏由	典真恭有	田安越田	須竹名村	子子子津

理 学 部 (142名)

秋勝佐釣坂山	山矢木 東田	麻真裕祐寿未	衣子子子恵野	新喜洪富古山	井多谷田崎本	数 づ 恵子美子子希	学 大小鈴成松横	科 月松木田岡内	智由素恭絵玲	恵美子実里子	小久平野山横	川間良呂口路	史 典奈恭孝	子玲子子子穂
市北田寺中藤峯吉	村島邊田村田岸野	千佐亜邦友朋な郁	晶子根子子子え世	猪衣谷徳根藤宮	熊笠口武岸波原	理 子子理子子ぶろ	学 打佐津徳林松山	科 越倉輕山 尾本	千規利美祥飛直	恵 子子子江代鳥子	加高津富福松脇	藤崎守山井尾田	由裕由め里朋絵	子子子み織子子
市千土夏東姫	川田田目 野	真か絵 智佳	弓り理歩子余	勝田中奈古	又切川良谷	化 子緒子子子	学 栗田中林松	科 林村西 沢	美恭央素優	樹子由子子	小戸中半南	松井西田	真智奈さ有	美子子香美

子卷百合希子 美百芳 久絵美小美	子里子子生惠美子子 美美由津里 惠麻曉誠奈八裕真千絵	稲小川古徳森	宇河北小十西日星本和	橋田島賀永田	山井山紫川江野子山田	美理紀子子苗 佳紀 文由友正亜早	香子子代子晶子子子 清綾牧正曉千愛久尚愛	科 田野子本寫田	科 田永 神坂坂 屋本邊	学 池大金國田増	学 岩神菅小隅奈坂古松渡	物 美子理実子子和 由賀理加 真千恵麻有和美	情 報子緒子子子穂江絵里子子 保実奈恵典啓瑞と七有優紀	川津田戸木田川	本澤満泉吉澤山井原下永	浅大梶木鈴原吉	稲小川小末中西藤松山福	子子子子子惠理 和美り世 佐牧久る香理恵	る子子子由美浦子紀恵美 お恵 か智順陽麻良美亜摩輝九	井津原高水田本	部崎持藤地村井口川谷	浅梅笠橋清原安	東岡川倉近苦西藤益山池
------------------------	----------------------------------	--------	------------	--------	------------	------------------------	-------------------------	----------	--------------	----------	--------------	------------------------------	--------------------------------	---------	-------------	---------	-------------	----------------------------	----------------------------------	---------	------------	---------	-------------

生活科学部 (146名)

彩子子子美 順陽素仁	子紀子紀子香子 由美 順美孝有久英睦	堀木田田田	橋池谷木富田	大鈴増山吉	泉大蒲染仁久保	生活環境学科 (生活工学)	江源藤村吉	本城木瀬崎	樹ほ 子り子美子 真か亮恵晶	生活環境学科 (食物科学)	田浦子石島蘭野	浅大金白豊濱水	緒美子紀美 幸亜礼阿聡	来所西多中 一木中松由岐	倉松川木川山田田	浅植小佐谷畠松山	子子子子子枝 紀緒佐 友奈知優直直	見本川井本見	木政畑村東澤田田	青岩大木高信平柳	浅岡瀬松山吉
子樹子子 奈美和ふ	子美い苗子美廷 奈美裕ぬ美敬寿有	藤西下山	場貫藤田田下	佐中宮横	一大佐多福山許	生活環境学科 (人間科学)	龜田水山	山中矢本	子恵子絵 子智淑圭麻	生活環境学科 (発達臨床学)	田村藤井谷内	石梅齊武八山蕭	子美子み 幸真菜ま	保松山野 大高真矢	城田木野阪野邊	井植黒高長矢渡	子子子子 晶敦絵育	保藤本田	阿新橋森	阿新橋森	
						人間生活学科	子育琴子子子香 智香 真裕由桂友		美子江子子葉菁 美真晃史久晶一雲				子美子子 由穂す	保松山野	城田木野阪野邊	井植黒高長矢渡	子子子子 里	保藤本田	阿新橋森	阿新橋森	
							子香き織代子子美 ま実 祥里た詩佳由尚秀						子子子子 佳布智 希	木政畑村東澤田田	青岩大木高信平柳	浅岡瀬松山吉					

浅江栗定武西丸渡	川上林作井野尾邊	り玲香実智由あ美	ん子里紀子子ね子 穂か也	伊陰佐鈴田坂八鍾	藤山藤木邊野木	人間生活学科 人 晃真幸ま真寧彩瑞 子美子み穂子子雲 由ゆ	宿俣賀沢海間本	指川志芹鳥本山	宮村開氏辻本田	都 宇木下高中松吉	雅由千美有真久美	子子春佳紀理子 希美
青是土日吉	木永本野川	寛真理流千	子優香美詠	上末戸古吉	田元田庄田	人間生活学科 人 眞妙陽洋央 由美美子美奈	端嶋野内邊	川高永山渡	八重邊 内津	小田林霞阿久	良綾玲あ実	子子津さ穂 り

家 政 学 部 (4名)

金 井 彩 森 本	児 童 学 科 菜保子 樋 口	早百合
平 木 理 子	家 庭 経 営 学 科	

修 了 者 氏 名

大 学 院 修 士 課 程

人 文 学 科 研 究 科 (74名)

木守濱	元坂	麻如悦	里子子	角吉	田原	玲雅	子子	哲 学 専 攻 畑 谷	由紀子紅	松畔	下柳	真千	記絵
黒趙長	澤田	瑞由	恵麗美	加金	藤子	厚泰	子子	史 学 専 攻 岸 野	幸弘	子慧	杉孟	村	恵鳳
佐	藤	ゆきの	の	中	安	直	子	地 理 学 専 攻					
内李	海	紀炫	子瑛	倉朴	沢	希久美	子京	日 本 文 学 専 攻 田中見	文尚	恵子	成	田	信子
杉	村	安幾子	渡	邊	里	美	郭	中 国 文 学 専 攻	雲	輝	田		禾
橋	野	朋子	堀	田	道	文	子	英 文 学 専 攻 山 横	敏	美			

井渡岩白	上邊崎石	愛子子子 理子子子 惠規恭	澁西岩齋	川林槻藤	教日香子子 明容恵瑞	攻野垣村	厚智裕	山井佐	下伊藤	薰子子
小毛川清	川利副水	子子子子 紀子子子 有有伊淑	酒畦砂	向山川	舞踊教育 治恵裕	攻本島中	亮聖麻	高平福	成田田	子子子 繪子子 麻友千
猪菊堀楊	狩池	美民和 佳子子 保子子 晶子子	石鈴郭	橋木	日本言語文化 日玲紀末	攻塚肩	淳志夏	片八横	山若川	子子子 美子子 智壽澄

理 学 研 究 科 (77名)

石串萩	橋田田	姿典真 理子子 子子子	大小福	鷺林島	数 学 寿由宏	攻村本	幸真真	影中	山村	美弥	央生
青古戸野李々々	木池田村	真由美 光江子 雅子子 真規菱	今佐大増末々々	井木西山吉	物 理 学 布文伸千由奈々	攻田藤村本木	美恭美い美	清田二善	瀬中瓶里	淳恵純彩	子子子 理子子 子子子
天工佐古久々	野藤間屋	麻か方敦 穂り子子 お子子	石藏島村	塚方田本	化 学 玲美純明	攻本越中岸	亜祥美陽	片酒長油	岡井瀬谷	昌麻明美	子子子 保子子
石中松	毛野本	奈真亜 緒理沙 子子子	猪野丸	平田谷	生 物 学 佳令美香	攻泉井	由真	神松内	部井山	素慶奈保	子子子 保子子
飯北平安康	岡原澤井	美さ智民小 お美美子 恵美子 慧子子	伊佐米矢篠	藤藤田野田	情 報 科 学 ま亜桂郁良	攻川内口邊	奈浩由直林	冲新森王	本居田	淑由礼素	子子子 佳子子 媛子子

家 政 学 研 究 科 (47名)

川北福松	澄川澤井	美久美 淳子子 夏子香子	鵜北福山	木村丸口	児 童 学 恵琴由香	攻倉田井	定治知	川長堀	田川	礼伸淳	子江世
------	------	--------------------	------	------	---------------	------	-----	-----	----	-----	-----

開竹三	地中島	恭真順	子紀子	甲谷柳	畠沢	食物学	知早佳	攻	真み夢	美り雨	川中	口川	由亜	美紀
青金長	木岡川	も宏廣	ゆる子	岩小鉢	元林野	被服学	泰ゆ	攻	聡弥静	美香華	片根米	岡本山	千由直	乃香子
石谷蔡	川口	周和慧	子加子	犬林	飼	家庭経営学	博葉子	攻	成順	美子	高本	梨間	千奈緒	惠子

大学院博士課程

人間文化研究科 (14名)

尹	福	姫	水	野	光	子	崔	明	姫
人間発達学専攻									
三	上	賀	代						
三	宅	紀	子	山	主	智	子	昌	子
東	方	祐	綾	張	田	留	微	敦	子
和	田	祐	子	澤	田	留	美	敦	子
								深	谷
								子	敦
								子	子

諸 報

○永年勤続者表彰について

平成8年度退職時の永年勤続者表彰式及び文部省永年勤続者表彰伝達式が平成9年3月31日学長室で行われ、被表彰者に表彰状並びに記念品が授与されました。

被表彰者は次のとおりです。

お茶の水女子大学表彰

学生課専門員 大 澤 輝 子

文部省表彰

事 務 局 長 北 根 康 志

○平成9年春の叙勲について

平成9年4月29日の春の叙勲で本学名誉教授 近藤光男氏が勲三等旭日中綬章を受章されました。

○海外渡航

所属・職名	氏名	渡航先国	渡航目的	期間	渡航種目
附属高等学校 ・教諭	高橋通泰	オーストラリア	メルボルンにある3つの高等学校を訪れ、本校との間に国際理解教育を推進するプログラムを組む可能性などについて話し合いを行う	9.3.10～ 9.3.17	海外研修
理学部・教授	藤原正彦	インド	マドラス大学ラマヌジャン研究所にて講演と研究のため	9.3.13～ 9.3.21	外国出張
文教育学部 ・教授	小風秀雅	連合王国	イギリスにおけるアジア研究・開発システムの実際と課題	9.3.15～ 9.5.14 (帰国予定)	外国出張
生活科学部 ・教授	利谷信義	オーストラリア ニュージーランド	科学政策、女性政策の研究	9.3.15～ 9.3.23	外国出張
理学部・助教授	今野美智子	フランス共和国	ルイ・パストール大学で共同プロジェクトの推進と議論のため	9.3.19～ 9.3.29	海外研修
文教育学部 ・教授	大口勇次郎	イタリア共和国	国際経済史学会「経済制度としての宮廷」部会の研究集会への出席及び研究報告	9.3.21～ 9.4.2	海外研修
生活科学部 ・教授	袖井孝子	アメリカ合衆国	外務省派遣講師	9.3.26～ 9.4.9	外国出張
文教育学部 ・助教授	駒込武	連合王国	イギリス植民地支配に関する研究調査及び著書出版に関する編集会議	9.3.26～ 9.4.4	海外研修
生活科学部 ・助教授	御船美智子	中華人民共和国	中国国家計調査の方法、実際についての研究	9.3.26～ 9.4.4	海外研修
文教育学部 ・助手	山田志乃布	連合王国	海外における日本関係地図及び史料の所在調査	9.3.29～ 9.4.8	海外研修
文教育学部 ・助教授	熊谷圭知	オーストラリア	太平洋島嶼諸国関係の文献資料収集	9.4.1～ 9.4.8	海外研修
附属中学校 ・教諭	佐藤道幸	中華人民共和国	インターナショナルGLOBEトレーニングワークショップ	9.4.20～ 9.4.28	海外研修
理学部・教授	細矢治夫	香港	米国化学会香港支部設立記念式典参加	9.4.22～ 9.4.25	海外研修
理学部・助教授	藤代一成	フランス共和国	Cergy Pontoise大学での研究打合せ及びEurographics Workshop on Visualization in Scientific Computing'97参加のため	9.4.22～ 9.5.2 (帰国予定)	海外研修

○健康診断

事項	実施日時	対象者	受診者数	実施場所
職員特別定期健康診断 (第2回)	平成9年3月11日	自動車運転手	2人	保健管理センター

○大学資料委員会からのお知らせ

平成7年の創立120周年を期に、学内に所在する「重要物品」の調査が行なわれ、それをもとにして平成7年11月8日から11日まで、文教育学部1号館会議室を会場にして120周年記念展示会が開かれ、『記念展示図録』が作成されました。この時の調査は必ずしも十分なものではありませんでしたが、本学には120年の歴史を物語る多くの貴重な資料の存在することが改めて認識されるとともに、それらが必ずしも良好な条件の元に保管されているとは言えないことや資料自体の保存の基準も特にないことも明らかになりました。そこで大学資料の収集と保存のための体制を考える必要があると判断された太田前学長の指示によって、大学資料の収集と保存を考える小委員会が図書館長の呼びかけで開かれ、平成8年3月4日にはこの小委員会から学長あてに、大学資料の定義・保存の現状・今後への提言を盛り込んだ報告がされました。この報告を受けて、5月に大学資料委員会規程が作られて委員会が発足しました。

委員会の当面の活動として、120周年記念事業時に作成された目録による資料の確認調査とその充実を手がけることとし、平成8年度教育研究学内特別経費の配分を受けて活動を始めました。平成9年3月までに168件の資料について下図のような資料カードを作成し、順次コンピューターに入力して、将来の公開にむけての体制も同時に作っています。本年の4月からはジェンダー研究センター内の大学史に関する資料の調査とカード作成にとりかかっています。

これまでの調査の過程で「重要物品」リストに上げられていなかった資料もかなり見出されていますが、なお未調査・未確認の貴重な資料が多数存在するであろうことが予想されます。委員会で対象とする大学資料は、附属校園を含む本学の歴史に関する「大学史関係資料」、標本や研究教育活動の過程で生み出されてきた「学術資料」、教授会議事録を含む大学の事務資料である「大学行政文書」を指しており、こうしたもののうち、保管場所等の都合で破棄を考えざるをえないものが出てきたときには、とりあえず庶務課庶務係までお知らせいただければ幸いです。

資料番号	<input type="text"/>	分類	<input type="text"/>	保管場所	附属幼稚園教材室
読み	きぼりおひなさまいっしき			保管状況	木箱入 木製戸棚内保管
資料名	木彫りおひなさま一式			収蔵庫内収蔵場所	<input type="text"/>
作者	石川確治			保存の状態	<input type="text"/>
資料の形態	雛人形			制作年代	昭和2年
材質	木			法量	<input type="text"/>
用途	<input type="text"/>				
関連資料/付属品	お道具類				
備考	作者は帝展審査員 野口光彦作 木目込みおひな様一式などとともに年一回 展示し、一般に公開する				
記入日	1997.3.3		記入者	柘植千夏	



日 誌

◇諸 会 議

- 3月3日(月) 文教育学部総合文化学コース運営委員会
- 5日(水) 部局長会議、主任会議(3学部)
- 6日(木) 教授会(3学部)
- 10日(月) 生活科学部カリキュラム小委員会、理学部PR委員会、理学部附属臨海実験所運営委員会
- 11日(火) 研究科会議、大学資料委員会
- 13日(木) 文教育学部総合文化学コース委員会
- 14日(金) 施設計画委員会、附属図書館運営委員会
- 17日(月) 生活環境研究センター運営委員会、大学教員の任期制問題検討特別委員会、人間文化研究科専攻長会議
- 18日(火) 情報処理センター運営委員会、主任会議(3学部)
- 19日(水) 教授会(3学部)、紀要(自然科学報告)編集委員会
文教育学部教務関係事項検討委員会
- 21日(金) 学生委員会
- 24日(月) 極低温実験室運営委員会、SCS事業に関する研究会
- 25日(火) 大学院問題特別検討委員会、部局長会議、附属学校教育研究委員会
- 26日(水) 評議会、施設計画委員会、拡大主任会議(理)
- 27日(木) 主任会議(生活)、入試委員会
- 28日(金) 課長・事務長会議、事務連絡協議会
- 4月7日(月) 附属学校委員会
- 8日(火) 代議員会、人間文化研究科会議
- 9日(水) 文教育学部教務関係事項検討委員会
- 10日(木) 部局長会議、主任会議(3学部)
- 11日(金) 教授会(3学部)

- 16日(水) 文教育学部教務関係事項検討委員会

- 4月18日(金) 代議員会、教育実習専門委員会
- 21日(月) ジェンダー研究センター運営委員会
- 22日(火) 入学者選抜方法研究委員会、理学部PR委員会、理学部臨時主任会議、部局長会議、国際交流基金理事會
- 23日(水) 学生委員会、評議会、入学試験委員会、附属学校教育研究委員会
- 25日(金) 課長・事務長会議、生活科学部カリキュラム小委員会、事務連絡協議会、大学紹介ビデオ制作委員会

◇行 事 等

- 3月3日(月) 大学院人間文化研究科入学試験(～5日)
- 7日(金) 学部入学試験合格発表
- 12日(水) 学部入学試験(後期日程)
- 13日(木) 学部入学試験(後期日程)、学部入学手続(前期日程)(～14日)、人間文化研究科合格発表
- 14日(金) 退職者に対する退職手当等事務説明会、停(定)年退職者全学送別会
- 15日(土) 附属幼稚園卒園式
- 17日(月) 附属中学校卒業式
- 18日(火) 附属小学校卒業式
- 19日(水) 附属高等学校卒業式
- 21日(金) 学部入学試験合格者発表(後期日程)、卒業式・学位記授与式予行練習
- 24日(月) 卒業式・学位記授与式
- 25日(火) 学位記(論文博士)授与式
- 26日(水) 入学手続(～27日)、就職ガイダンス

- 3月31日（月）永年勤続退官者表彰式、事務局長
離任式
- 4月1日（火）事務局長就任式
- 2日（水）人間文化研究科願書受付（～4日）
- 8日（火）附属高・中・小学校入学式
- 9日（水）入学式、新入生オリエンテーショ
ン（～11日）
- 10日（木）附属幼稚園入園式
- 11日（金）営繕関係要求ヒアリング（於：文
部省）、一般設備費要求ヒアリン
グ（於：文部省）
- 14日（月）新入生セミナー（～16日）、人間
文化研究科入学試験、平成10年度
概算要求事務局ヒアリング
- 15日（火）平成10年度概算要求事務局ヒアリ
ング
- 16日（水）外国人留学生オリエンテーション
- 17日（木）平成10年度概算要求事務局ヒアリ
ング
- 18日（金）厚生補導関係事業計画説明（於：
文部省）
- 21日（月）人間文化研究科入学試験合格発表、
臨海実験所所長会議
- 22日（火）人間文化研究科入学手続（～23日）
- 24日（木）関東甲信越地区国立学校等会計部
課長会議（於：山梨大学）（～25
日）、東京地区大学入試センター
試験担当課長会議（於：東京外国
語大）、全国就職指導ガイダンス
（於：昭和女子大学）、国立大学
図書館協議会・東京地区協議会総
会
- 25日（金）人間文化研究科入学式